

|                |  |  |
|----------------|--|--|
| 科目名            | 授業の到達目標及びテーマ<br>到達目標：卒業論文の題目設定から始め、論文を作成遂行するまでの各段階を順次乗り越えて行くこと。<br>テーマ：卒業論文作成の実際。  |  |
| スピリチュアルケア演習Ⅱ－1 | 授業の概要<br>受講生が自ら設定した研究課題を中心に、卒業論文完成に至るまでの資料操作、研究方法、論述、表現法など、スピリチュアルケア領域での卒論作成上の学的手法について、個々人に対応した教育・研究指導を行う。   | 授業の概要<br>受講生が自ら設定した研究課題を中心に、卒業論文完成に至るまでの資料操作、研究方法、論述、表現法など、スピリチュアルケア領域での卒論作成上の学的手法について、個々人に対応した教育・研究指導を行う                            |
| 学期             | 授業計画<br>受講生個々人の卒論への取り組み具合に応じ、教員・受講生全員による意見の交換を行いながら、卒論演習を展開する。<br>前期セミナーでは、受講生各自の論題を設定することから始め、当該論題と関連する課題にも取り組むべき課題があるはずであることに注意を喚起しながら、受講生それぞれが研究課題発表を行うことを通じて、具体的に、論文の構成、論述、表現法などを教授して行く。 | 授業計画<br>受講生個々人の卒論への取り組み具合に応じ、教員・受講生全員による意見の交換を行いながら、卒論演習を展開する。<br>後期セミナーでは、卒論作成途上の課題研究状況について、各自が発表を行うことを通じて、具体的に、構成、論述、表現法などを教授して行く。 |
| 前期             |  |  |
| 単位数            | 1  |  |
| 担当者            | テキスト<br>使用しない。   | テキスト<br>使用しない。   |
| 室寺義仁           | 参考書・参考資料等<br>必要に応じて、適宜、紹介する。   | 参考書・参考資料等<br>必要に応じて、適宜、紹介する。   |
|                | 学生に対する評価<br>各受講生の卒論作成遂行過程での発表内容を主とした平常点で70%、学期年レポートで30%の評価割合をもって総合的に評価を行う。<br>その他  | 学生に対する評価<br>各受講生の卒論作成遂行過程での発表内容を主とした平常点で70%、年度末試験で30%の評価割合をもって総合的に評価を行う。<br>その他  |

|                |   |  |
|----------------|---|--|
| 科目名            | 授業の到達目標及びテーマ<br>到達目標：卒業論文を作成するために必要なアイディアを膨らませる力、関係資料や先行研究についての情報収集力、分析力、そして論文として表現するための構成力を養う。<br>テーマ：卒業論文作成のための準備トレーニング |  |
| スピリチュアルケア演習Ⅱ－3 | 授業の概要<br>研究テーマについてのブレインストーミング、KJ法によるマッピング、ショート・プレゼンテーション、ディスカッションなどによって各自のアイディアを暖めてゆく。                                    | 授業の概要<br>毎回授業のはじめに、各自の進行状況を手短に報告しあう。実際に論文を作成してゆくプロセスに従って、個人的に必要な指導と支援を行う。                    |
| 学期             | 授業計画<br>1. 自己紹介と授業の流れについて<br>2～5. アイディアを浮かばせる、膨らませる作業。<br>9～10. 情報を集めて整理する作業。<br>11～15. 総要を作成し、発表して議論する。                  | 授業計画<br>1. 授業の流れの確認。<br>2～8. 各自が論文を作成する作業と個人指導。<br>9～14. プrezentationと合評会。<br>15. ふりかえりとまとめ。 |
| 前期             |   |  |
| 単位数            | 1   |  |
| 担当者            | テキスト<br>なし。   | テキスト<br>なし。  |
| 井上ウイマラ         | 参考書・参考資料等<br>そのつど必要に応じて紹介する。  | 参考書・参考資料等<br>各自のテーマに応じて、そのつど適宜紹介する。  |
|                | 学生に対する評価<br>平常点(30%)と参加態度(30%)、作成したレポート(40%)によって評価する。<br>その他  | 学生に対する評価<br>平常点(20%)と参加態度(20%)、作成した論文(60%)によって評価する。<br>その他                                   |

|   |  |  |
|---|--|--|
| 科目名   | 授業の到達目標及びテーマ<br>到達目標：卒業論文のテーマを決定し、実験、観察、調査、テスト、面接などを実施する。4回生対象。<br>テーマ：卒業論文作成の実際 |  |
| 臨<br>床<br>心<br>理<br>学<br>演<br>習<br>II<br>-<br>1 |  |  |
| 学期  |  |  |
| 前<br>期  |  |  |
| 単位数   |  |  |
| 1   | テキスト<br>なし   |  |
| 担当者   | 参考書・参考資料等<br>適時、紹介する。  |  |
| 森<br>崎<br>雅<br>好                                | 学生に対する評価<br>平常点 30%、各自の取り組み（授業での発表、レポート作成）<br>70%                                |  |
|   | その他  |  |

  

|   |  |  |
|---|--|--|
| 科目名   | 授業の到達目標及びテーマ<br>到達目標：卒業論文の作成。4回生対象。<br>テーマ：卒業論文作成の実際 |  |
| 臨<br>床<br>心<br>理<br>学<br>演<br>習<br>II<br>-<br>2 |  |  |
| 学期  |  |  |
| 後<br>期  |  |  |
| 単位数   |  |  |
| 1   | テキスト<br>なし   |  |
| 担当者   | 参考書・参考資料等<br>適時、紹介する。                                |  |
| 森<br>崎<br>雅<br>好                                | 学生に対する評価<br>平常点 30%、各自の取り組み（授業での発表、レポート作成）<br>70%    |  |
|   | その他  |  |

|                             |  |  |
|-----------------------------|--|--|
| 科目名                         | 授業の到達目標及びテーマ<br>到達目標：・動画の撮影・編集を学ぶ。<br>・チームで協力して作業することを学ぶ。<br>テーマ：・インタビュー映像（前半）<br>・ショートムービー（後半）  |  |
| 総<br>合<br>科<br>目「デジタルアーカイブ」 |  |  |
| 学期                          |  |  |
| 前<br>期                      |  |  |
| 単位数                         |  |  |
| 2                           | 授業の概要<br>受講者を数名のチームに分け、期間中に各チーム 2種類の動画を作成する。   |  |
| 担当者                         | 授業計画<br>1. ガイダンス<br>2. インタビュー映像作成（1）<br>3. インタビュー映像作成（2）<br>4. インタビュー映像作成（3）<br>5. インタビュー映像作成（4）<br>6. インタビュー映像作成（5）<br>7. インタビュー映像作成（6）<br>8. インタビュー映像作成（7）<br>9. ショートムービー作成（1）<br>10. ショートムービー作成（2）<br>11. ショートムービー作成（3）<br>12. ショートムービー作成（4）<br>13. ショートムービー作成（5）<br>14. ショートムービー作成（6）<br>15. ショートムービー作成（7） |  |
| 藤<br>吉<br>圭<br>二            | テキスト<br>必要に応じ授業中にプリントを配布する。  |  |
|                             | 参考書・参考資料等<br>授業中に紹介する。   |  |
|                             | 学生に対する評価<br>・映像のできばえをチームごとに評価し、メンバーについてはチームリーダーによる評価を加味する。<br>※詳細はガイダンスで説明する。  |  |
|                             | その他<br>・初回に配布するガイダンスプリントを必ず入手しておくこと。   |  |

  

|                  |                               |  |
|------------------|-------------------------------|--|
| 科目名              | 授業の到達目標及びテーマ<br>到達目標：<br>テーマ： |  |
|                  |                               |  |
| 授業の概要            |                               |  |
| 授業計画             |                               |  |
| 学期               |                               |  |
| 前<br>期           |                               |  |
| 単位数              |                               |  |
| 2                | 授業の概要                         |  |
| 担当者              | 授業計画                          |  |
| 藤<br>吉<br>圭<br>二 | テキスト                          |  |
|                  | 参考書・参考資料等                     |  |
|                  | 学生に対する評価                      |  |
|                  | その他                           |  |

|              |   |
|--------------|---|
| 科目名          | 授業の到達目標及びテーマ<br>到達目標：<br>テーマ：英語情報の入手  |
| 英語III-1〔留学用〕 | <b>授業の概要</b><br>インターネットを占める言語は70%近くが英語である。そこには多方面にわたる英語情報が含まれている。この授業では、学生諸君にとって役立つと思われる英語情報の入手の仕方、およびその内容を理解することを学ぶ。 |
| 学期           | <b>授業計画</b><br>前期は主に検索方法、英語情報の入手の説明を中心にし、ネット上の簡単な英文を読むことにする。  |
| 前期           |   |
| 単位数          |   |
| 1            | <b>テキスト</b><br>テキストはありませんが、USBメモリーを用意すること。  |
| 担当者          | <b>参考書・参考資料等</b>  |
| 高倉正行         | <b>学生に対する評価</b><br>出席状況と提出物で評価する。   |
|              | その他   |

|              |   |
|--------------|---|
| 科目名          | 授業の到達目標及びテーマ<br>到達目標：<br>テーマ：英語情報の整理と読解   |
| 英語III-2〔留学用〕 | <b>授業の概要</b><br>インターネットを占める言語は70%近くが英語である。そこには多方面にわたる英語情報が含まれている。この授業では、学生諸君にとって役立つと思われる英語情報の入手の仕方、およびその内容を理解することを学ぶ。 |
| 学期           | <b>授業計画</b><br>後期は主に英字新聞を読んでいきます。易しい内容のものから徐々に難しい内容の英文に進んでいきます。   |
| 後期           |   |
| 単位数          |   |
| 1            | <b>テキスト</b><br>テキストはありませんが、USBメモリーを用意すること。  |
| 担当者          | <b>参考書・参考資料等</b>  |
| 高倉正行         | <b>学生に対する評価</b><br>出席状況と提出物で評価する。   |
|              | その他   |

|               |   |
|---------------|---|
| 科目名           | 授業の到達目標及びテーマ<br>到達目標：宗教、特に真言密教に関する英文テキストを読むことを通じて現代社会における宗教の意味を考察する。<br>テーマ：英文を通じて真言密教の文化と教えを再確認  |
| 英語IV-1〔大学院特進〕 | <b>授業の概要</b><br>最近、真言密教に関する優秀な論文を英語が発表されている。いくつかのそのような論文を読んで、正しく和訳する上、英文でどのように真言密教の歴史・文化・教義・觀法などを表現できるか、またその結果を海外布教に展開するのみならず、それによって日本の現代社会における宗教の意味を再確認する。阿字觀についての論文を今回予定している。 |
| 学期            | <b>授業計画</b><br>1. オリエンテーション、英語読解能力を査定する<br>2. 英文テキストを配布して、内容を英語と日本語で講義して、講読を開始する。<br>3~15.<br>以下、英訳テキストにもとづいて和訳を試みて、内容についてディスカッションを行う。  |
| 前期            |   |
| 単位数           |   |
| 1             | <b>テキスト</b><br>Nicoloff, Philip L., Sacred Kōyasan. をコピーで配布<br>Payne, Richard K., "Ajikan: Ritual and Meditation in the Shingon Tradition" をコピーで配布                              |
| 担当者           | <b>参考書・参考資料等</b><br>必要に応じて授業で指示する   |
| T. ドライライアン    | <b>学生に対する評価</b><br>レポート 60%; 出席含む平常点 40%  |
|               | その他   |

|               |   |
|---------------|---|
| 科目名           | 授業の到達目標及びテーマ<br>到達目標：宗教、特に真言密教に関する英文テキストを読むことを通じて現代社会における宗教の意味を考察する。<br>テーマ：英文を通じて真言密教の文化と教えを再確認  |
| 英語IV-2〔大学院特進〕 | <b>授業の概要</b><br>最近、真言密教に関する優秀な論文を英語が発表されている。いくつかのそのような論文を読んで、正しく和訳する上、英文でどのように真言密教の歴史・文化・教義・觀法などを表現できるか、またその結果を海外布教に展開するのみならず、それによって日本の現代社会における宗教の意味を再確認する。阿字觀についての論文を今回予定している。 |
| 学期            | <b>授業計画</b><br>1. オリエンテーション、英語読解能力を査定する<br>2. 英文テキストを配布して、内容を英語と日本語で講義して、講読を開始する。<br>3~15.<br>以下、英訳テキストにもとづいて和訳を試みて、内容についてディスカッションを行う。  |
| 後期            |   |
| 単位数           |   |
| 1             | <b>テキスト</b><br>Nicoloff, Philip L., Sacred Kōyasan. をコピーで配布<br>Payne, Richard K., "Ajikan: Ritual and Meditation in the Shingon Tradition" をコピーで配布                              |
| 担当者           | <b>参考書・参考資料等</b><br>必要に応じて授業で指示する   |
| T. ドライライアン    | <b>学生に対する評価</b><br>レポート 60%; 出席含む平常点 40%  |
|               | その他   |

| 科目名                   | 授業の到達目標及びテーマ  |
|-----------------------|---|
| 中国語Ⅰ<br>(初級)          | 到達目標：「学問のための学問」ではなく、実社会で少しでも使える語学の習得を目指す。外国語学習を通して母国語と自國文化をより深く理解し、国際的な広い視野をもった人材を養いたい。<br>テーマ：中国語の基礎学習 ニーオから始めよう！  |
| 中国語Ⅱ<br>(初級)          | 授業の概要<br>視覚的に「漢文」として中国語をとらえるのではなく「聞く」「話す」に重点をおいた授業を行う。<br>正確な発音をマスターし、日常の挨拶語や平易な文など基本的な文型の修得を目指す。   |
| 授業計画                  | 【前期】<br>1. 年間授業計画の説明。中国に関する一般常識、中国語の特性、外国语学習の方法と意義などを。<br>2. 「四声」と呼ばれる声調と、中国語の発音記号「ビンイン」の習得。徹底的な発音練習。<br>3. 中国独特の漢字「簡体字」の学習。<br>4. 「四声」と「ビンイン」の習得。電子辞書を含む中国語辞書の紹介と使い方の説明。<br>5. 「簡体字」と「ビンイン」で書いた受講者のネームカードを配り、名前を使った発音練習。以後出欠は中国語でとする。<br>6. 「四声」「ビンイン」「簡体字」をある程度習得すれば、テキストに従って挨拶や基本的な文型を学習する。<br>7-14. テキストを中心とした授業。ノートではなく記憶に残すような授業につとめる。<br>テキストは前期中に第1～4課を学習する予定（学生の理解度により随時学習単元を増減）。ただし文法解説は必要最低限とし、「聞く」「話す」に重点をおいた授業。常用文の暗誦（文章丸暗記こそ語学習得の近道！）を義務付ける。机上の学問ではなく実際で使える中国語の習得をめざす。<br>15. 前期試験について。アンケート。 |
| 学期                    | 【後期】<br>1. 前期に学習した「四声」「ビンイン」「簡体字」と、テキスト既習単元の総復習。前期試験の反省。<br>2-14. テキストを中心とした授業。<br>テキスト第5～8課を学習する予定（学生の理解度により随時学習単元を増減）。文法解説は前期よりやや増やすものの、複雑にならない程度とし、既習文が実際に通じるかどうかを具に検証する。<br>学生の発言機会を増やす、発音・文法を正しながら、「聞く」「話す」に重点をおいた授業に徹す。<br>常用文の暗誦を義務付け、実際に「聞ける」「話せる」中国語の習得をめざす。<br>また同時に、日中関係など国際社会における中国の立場を検証し、現代中国の抱える諸問題についても考えゆきたい。<br>15. 後期試験について。アンケート。   |
| 前<br>期<br>年<br>後<br>期 |   |
| 単位数                   |   |
| 1<br>2 +<br>1         |   |
| 担当者                   | 【テキスト】<br>『はじめまして！中国語』白水社 喜多山幸子 鄭幸枝 著 ※生協で購入<br>参考書・参考資料等<br>辞書（小学校の「中日辞典」など）はぜひとも購入してもらいたい。電子辞書やその他参考書籍についても授業中随時紹介する。その都度必要な資料を作成、配布する。   |
| 土<br>生<br>川<br>正<br>賢 | 学生に対する評価<br>①試験（評価50%）：②授業中の発表や受講態度（評価25%）：③出欠状況（評価25%）を基準とし、総合的に判定する。但し、中国語に自信のある学生は出欠を問わず試験に合格すれば及第点は与える。<br>その他<br>聞けぬ話せぬ語学では実社会では役に立たない。受講者の大部分は文法学者ではなく、多少とも実際に使える語学を志していると考える。簡単な挨拶文から始めるので、学生諸君には積極的に会話する姿勢を要求したい。   |

| 科目名                        | 授業の到達目標及びテーマ  |
|----------------------------|---|
| 中国語Ⅰ<br>(上級)               | 到達目標：国際的な視野をもち、中国語を使って仕事ができる人材を育成したい。我が国の歴史・文化・政治的立場等を、中国語で堂々と主張できる国際人の養成。<br>テーマ：実践的中国語 中国語で意思表示しよう！   |
| 中国語Ⅱ<br>(上級)               | 授業の概要<br>基本的には初級クラスの延長であり、受講生の語学力にあわせた個別指導を行って安心して受講して頂きたい。各々のレベルに応じて、実践的な中国語を修得できるよう指導する。  |
| 授業計画                       | 【前期】<br>1. 年間授業計画の説明。初級クラスで学んだ中国語の発音と基本的な文型など、語学力のチェックと復習。<br>2. 初級クラスで学んだ中国語の基礎復習。発音の再チェック。辞書・参考文献の紹介。<br>3-8. 初級クラス同様「聞く」「話す」に重点を置き、文法の基礎固めをしながら、初級でやり残したテキスト単元を学習。<br>9-14. 受講生の語学力に適した教材を選択し、その都度配布する。実際に使われる中国語の習得をめざす。そのためには、目で中国語を「見る」のではなく、常用文を暗誦することにより「聞く」「話す」という「音」に重点をおいた授業を行なう。常用文を活用して、学生個々が中国語で自己の意思表現ができるようにつとめたい。<br>また同時に、日中関係など国際社会における中国の立場を検証し、現代中国の抱える諸問題についても考えてゆきたい。<br>15. 後期試験について。アンケート。 |
| 学期                         | 【後期】<br>1. 前期に学んだテキスト既習単元と基本的な文型の総復習。前期試験の反省。<br>2-14. 受講生の語学力に適した教材を選択し、その都度配布する。<br>前期同様、実践的な中国語の習得を義務付け、それを基礎として段階的に応用し、学生個々が中国語で自己の意思表現ができるようにつとめたい。<br>学生の発言機会を増やす、発音・文法を正しながら、引き続き「聞く」「話す」に重点をおいた授業に徹す。各人がレベルアップを実感できるようつとめたい。<br>ピアリング能力向上のため、可能な限り中国語を用いて授業をすすめたい。<br>年間を通して、日中関係など国際社会における中国の立場を検証し、現代中国の抱える諸問題についても考えてゆきたい。<br>15. 後期試験について。アンケート。  |
| 前<br>期<br>通<br>年<br>後<br>期 |   |
| 単位数                        | 【テキスト】<br>初級クラスで使った教科書の未修単元。<br>今年度は『はじめまして！中国語』白水社 喜多山幸子 鄭幸枝 著 ※生協で購入  |
| 1<br>2 +<br>1              | 参考書・参考資料等<br>上記テキスト全単元学習した後は、その都度必要な教材・資料を配布する。電子辞書やその他参考書籍は授業中随時紹介する。辞書は毎回必携（電子辞書可）。   |
| 担当者                        | 学生に対する評価<br>筆記試験と中国語による個別面接試験、授業中の発表やリポート、受講態度に出欠状況を加味して総合的に判定する。但し、中国語に自信ある学生は、出欠にかかわらず試験に合格すれば及第点は与える。<br>その他<br>上級クラスではあるが、受講生のレベルにあわせた個別指導を心がけるので心配なく！<br>諸君の先輩の中には北京大・復旦大・中山大など中国の一流の大学院に国費留学し学位取得した者もいる。井の中の蛙で終わらないでほしい。できる限り中国語を用いて中国語の講義をしたい。諸君の自発的な授業参加を希望する。  |
| 土<br>生<br>川<br>正<br>賢      |   |

| 科目名                 | 授業の到達目標及びテーマ   |
|---------------------|--|
| ササンスクリット語<br>(I 初級) | 到達目標：サンスクリット語の単文読解能力を身につける<br>テーマ：サンスクリット音論トレーニング  |
| 授業の概要               | 授業計画<br>1. 導入：サンスクリット語とはどのような言語であるかについて解説する。<br>2. サンスクリット語のアルファベットとデーヴァナガリー文字について学習する。<br>3. Guva + V 3dhi 法則を中心とした音論に関する知識を深める。<br>4. 動詞の現在組織 (Present) に関する知識を養う。<br>5. 語根類推トレーニングを行う。<br>6. 同上<br>7. 同上<br>8. 連声 (Sandhi) 法則についての知識を深める。<br>9. 同上<br>10. 以上の知識をもとに、短文読解の訓練を行う。<br>11. 同上<br>12. 同上<br>13. 同上<br>14. 代名詞の特徴について解説。前置詞や副詞等についての知識を深める。<br>15. 総まとめ |
| 授業計画                | 【テキスト】<br>担当者作成の『サンスクリット語サブグラマー』辻直四郎『サンスクリット文法』岩波全書（各自生協で注文購入すること）   |
| 参考書・参考資料等           | 学生に対する評価<br>平常点(20%)、授業態度(20%)、期末試験(60%)で評価する。   |
| 前<br>谷<br>彰         | その他  |

|                                 |  |   |
|---------------------------------|--|---|
| 科目名<br>サンスクリット語上級I／サンスクリット語上級II | 授業の到達目標及びテーマ   |   |
|                                 | 到達目標：文法の基礎と応用を学び、サンスクリット文学を独学できるために必要な実践的知識（文法書・辞書の使用法）を習得することを目標とする。  |   |
|                                 | テーマ：仏教の韻文作品、散文作品を読む  |   |
|                                 | 授業の概要  |   |
|                                 | サンスクリット語の精緻な文法体系に慣れ親しみ、読解のためのコツをつかんでインド古典の深みをあじわうことをめざす。前期はサンスクリット語初級の授業において培った基礎を確認した後、基礎的な短文からはじめて、簡単な仏典作品の読解を通じて、文章把握の手がかりをつかむ。後期は、基礎的な散文を学ぶために、平易かつ正確なサンスクリット表現で定評のある、ラトナーカラシャーンティの著作などを読む。授業のレベルおよび読解する作品は、出席者の希望を尊重する。               |   |
|                                 | 授業計画   |   |
|                                 | 【前期】<br>1. 導入<br>2. 基礎文法の確認1<br>3. 基礎文法の確認2<br>4. 短文読解練習1<br>5. 短文読解練習2<br>6. 短文読解練習3<br>7. 短文読解練習4<br>8. 仏典作品を読む1<br>9. 仏典作品を読む2<br>10. 仏典作品を読む3<br>11. 仏典作品を読む4<br>12. 仏典作品を読む5<br>13. 仏典作品を読む6<br>14. 仏典作品を読む7<br>15. テスト               | 【後期】<br>1. インド古典概論<br>2. サンスクリットの散文、注釈文献の様式<br>3. 散文作品読解1<br>4. 散文作品読解2<br>5. 散文作品読解3<br>6. 散文作品読解4<br>7. 散文作品読解5<br>8. 散文作品読解6<br>9. 散文作品読解7<br>10. 散文作品読解8<br>11. 散文作品読解9<br>12. 散文作品読解10<br>13. 散文作品読解11<br>14. 散文作品読解12<br>15. テスト  |
|                                 | テキスト   | テキストは、コピー配布する。  |
|                                 | 参考書・参考資料等  | ランマン『サンスクリット読本』。辻直四郎『サンスクリット文法』岩波書店。<br>G.A. Tubb, Scholastic Sanskrit: A Handbook for Students, Columbia Univ Pr 2007.   |
|                                 | 学生に対する評価   | 授業中の発表など30%、出席30%、テスト（前期・後期に各一回ずつ）40%   |
|                                 | その他  | サンスクリット語の基礎に自信のない学生も歓迎します。  |
| 学期<br>前通年<br>単位数<br>1<br>2+1    | 科目名<br>チベット語I/II   | 授業の到達目標及びテーマ  |
|                                 | 到達目標：【前期】古典チベット語の基礎文法の習得<br>【後期】簡単な文学作品にしたしながら古典チベット語の文献の読解力を養う。   |   |
|                                 | テーマ：【前期】チベット語文語文法入門<br>【後期】チベット語文献に親しむ   |   |
|                                 | 授業の概要  |   |
|                                 | はじめてチベット語を学ぶ人のための入門クラス。<br>前期は、文字の書き方や、古典チベット語の文法の基礎を解説しながら、チベット語の特徴を学ぶ。また、発音やアンクセントについてはラサ地方の口語チベット語を参考にしながら、チベット語の生きた姿にも慣れ親しむ。<br>後期は、前期の講義で学習した文法を復習しながら、仏典、伝記、詩を中心に、チベット語（文語）の文献を少しづつ読む。<br>チベットの文化に興味のある方、卒業論文でチベット語の資料を扱う方は受講してください。 |   |
|                                 | 授業計画   |   |
|                                 | 【前期】<br>1. オリエンテーション<br>2. 文字を学ぶ<br>3. 横字法と発音（1）<br>4. 横字法と発音（2）<br>5. 書の引き方<br>6. 名詞、人称代名詞<br>7. 数詞と数の表現<br>8. 指示代名詞と形容詞<br>9. 動詞と助動詞（1）<br>10. 動詞と助動詞（2）<br>11. 動詞と助動詞（3）<br>12. 格助辞（1）<br>13. 格助辞（2）<br>14. その他の辞、副詞<br>15. 疑問代名詞、関係代名詞 | 【後期】<br>1. 導入<br>2. 重要文法事項の再確認<br>3. チベット語短篇作品を読む－仏典－（1）<br>4. チベット語短篇作品を読む－仏典－（2）<br>5. チベット語短篇作品を読む－仏典－（3）<br>6. チベット語短篇作品を読む－仏典－（4）<br>7. チベット語短篇作品を読む－仏典－（5）<br>8. チベット語短篇作品を読む－仏典－（6）<br>9. チベット語短篇作品を読む－仏典－（7）<br>10. チベット語短篇作品を読む－仏典－（8）<br>11. チベット語短篇作品を読む－仏典－（9）<br>12. チベット語短篇作品を読む－仏典－（10）<br>13. チベット語短篇作品を読む－仏典－（11）<br>14. チベット語短篇作品を読む－仏典－（12）<br>15. テスト |
|                                 | ※折に触れて、チベットの文化や歴史についても紹介します。   | ※折に触れて、チベットの文化や歴史についても紹介します。  |
|                                 | 担当者<br>H.A. イエシケあるいはチャンドラ・ダスの『藏英辞典』（臨川書店）をどちらも購入のこと。   |   |
|                                 | 加納和雄   | 参考書・参考資料等<br>山口瑞鳳『[概説] チベット語文語文典』（春秋社）<br>松本栄一・奥山直司『チベット「マンダラの国」』（小学館）<br>※その他、必要に応じて講義の中で指示します。  |
|                                 | 学生に対する評価<br>授業中の発表など30%、出席30%、テスト30%   |   |
|                                 | その他  |   |

|                                       |  |  |
|---------------------------------------|--|--|
| 科目名<br>体育実技I-1(スポーツ)<br>体育実技I-2(スポーツ) | 授業の到達目標及びテーマ   |  |
|                                       | 自らの健康・体力の保持増進を図るための素地を養い、良好な人間関係や社会性を身につけることを目的とする。  |  |
|                                       | 授業の概要  |  |
|                                       | 【前期】バレーボールを中心に団体競技のゲームを楽しみながら、仲間づくりと生涯スポーツとして親しめるように指導。<br>【後期】バドミントンを中心に対人競技のゲームを楽しみながら、仲間づくりと生涯スポーツとして親しめるように指導。   |  |
|                                       | 授業計画   |  |
|                                       | 【前期】<br>1. 体育授業についての諸注意<br>2. 基礎動作の徹底<br>3. 同上<br>4. 班別にチームづくり・ゲームを楽しむ<br>5. 協力してゲームを楽しむ<br>6. 同上<br>7. チームメイトと一体となる動きを確認しながらゲームを楽しむ<br>8. 同上<br>9. チームを再編成して、ゲームを楽しむ<br>10. チームメイトと一体となる動きを確認しながらゲームを楽しむ<br>11. 同上<br>12. 同上<br>13. 同上<br>14. 実技試験<br>15. チームメイトと協力して、ゲームを楽しむ | 【後期】<br>1. バドミントンのルール説明・諸注意<br>2. ゲームを楽しみながら、技術を磨く<br>3. パートナーズづくりとゲームを楽しみ、メンタル面を学ぶ<br>4. 同上<br>5. 同上<br>6. 同上<br>7. 同上<br>8. 同上<br>9. 同上<br>10. 同上<br>11. 同上<br>12. 同上<br>13. 同上<br>14. 実技試験<br>15. パートナーズづくりとゲームを楽しむ |
|                                       | テキスト   | 特になし   |
|                                       | 参考書・参考資料等  | 該当せず   |
|                                       | 学生に対する評価   | 実技試験、出席状況による総合評価   |
|                                       | その他  |  |
| 学期<br>前通年<br>単位数<br>1<br>2+1          | 科目名<br>中村哲二  | 授業の到達目標及びテーマ   |
|                                       | 到達目標：  |  |
|                                       | テーマ：   |  |
|                                       | 授業の概要  |  |
|                                       | 授業計画   |  |
|                                       | 学期   |  |
|                                       | 単位数  |  |
|                                       | テキスト   |  |
|                                       | 参考書・参考資料等  |  |
|                                       | 学生に対する評価   |  |
| 担当者<br>中村哲二                           | その他  |  |

| 科目名    | 授業の到達目標及びテーマ<br>到達目標：旧約聖書についての基礎的知識を獲得する。<br>テーマ：旧約聖書の宗教思想  |
|--------|---|
| 宗教思想史Ⅰ | 授業の概要<br>旧約聖書の宗教思想を概説します。旧約聖書という書物の性格を概観した後、天地創造神話をはじめとする様々な内容が持つ宗教思想的な意味を解説します。  |
| 学期     | 授業計画  |
| 前期     | 1. オリエンテーション<br>2. 旧約聖書とは?<br>3. 天地創造神話の概要<br>4. 天地創造神話の意味<br>5. 神の似姿としての人間<br>6. 旧約聖書における人間の位置と現代<br>7. アブラハムによるイサクの献供<br>8. 出エジプトの物語<br>9. 十戒<br>10. 十戒の意味（1）<br>11. 十戒の意味（2）<br>12. 罪と許し<br>13. 智恵文書の思想<br>14. 預言者たちの言葉<br>15. まとめ |
| 単位数    | テキスト<br>なし  |
| 2      | 参考書・参考資料等<br>関根清三『倫理の探索』中公新書  |
| 担当者    | 学生に対する評価<br>平常点40点、小テスト20点、期末テスト40点   |
| 山脇雅夫   | その他   |

| 科目名    | 授業の到達目標及びテーマ<br>到達目標：キリスト教の宗教思想について、基礎的知識を獲得する<br>テーマ：キリスト教の宗教思想   |
|--------|--|
| 宗教思想史Ⅱ | 授業の概要<br>キリスト教の宗教思想を概説します。近年明らかになってきた、イエスという人物の歴史的実像を紹介した後、キリスト教の教理を解説します。   |
| 学期     | 授業計画   |
| 後期     | 1. オリエンテーション<br>2. 新約聖書とは?<br>3. 史的イエスの問題<br>4. マルコの福音書の問題<br>5. イエスの生涯<br>6. 宗教批判者としてのイエス<br>7. イエスの思想<br>8. ユダヤ教イエス派からキリスト教へ<br>9. ペテロ<br>10. パウロ<br>11. キリスト教教理の成立（1）ニカイア前史<br>12. キリスト教教理の成立（2）三位一体の神<br>13. キリスト教教理の成立（3）三位一体論の存在論<br>14. キリスト教教理の成立（4）キリスト論<br>15. まとめ |
| 単位数    | テキスト<br>なし   |
| 2      | 参考書・参考資料等<br>田川建三『イエスという男』（三一書房）、坂口ふみ『個の誕生』岩波書店  |
| 担当者    | 学生に対する評価<br>平常点40点、小テスト20点、期末テスト40点  |
| 山脇雅夫   | その他  |

| 科目名                | 授業の到達目標及びテーマ<br>到達目標：「聖なるもの」をキーワードに、東洋人の宗教観を理解する。<br>テーマ：「聖なるもの」を考える -ネパール・カトマンドゥ盆地の宗教を中心に-   |
|--------------------|---|
| 世宗界の学<br>宗教<br>(別) | 授業の概要<br>ネパールのカトマンドゥ盆地では、仏教とヒンドゥー教が混在して信仰され、独特の宗教形態を形成しています。この講義では、その実態を紹介しながら、「聖なるもの」をテーマに、東洋人の宗教観を理解し、宗教とは何かを探ります。  |
| 学期                 | 授業計画  |
| 前期                 | 1. オリエンテーション<br>2. 世界にはどんな宗教があるのか?<br>3. 仏教の歴史とアジア各地への伝播<br>4. ネパールってどんな国?<br>5. カトマンドゥ盆地の宗教<br>（以下13回まで、教科書のトピックスに基づき講義を進めます）<br>6. 死を愛する者<br>7. 輪廻<br>8. 仏塔と宇宙<br>9. ク<br>10. 曼荼羅と自己<br>11. ク<br>12. 自然と聖なるもの<br>13. ク<br>14. 「聖なるもの」とは何か?<br>15. まとめ |
| 単位数                | テキスト<br>立川武蔵『インド・ネパール 聖なるものへの旅』（人文書院）<br>※絶版になっていますが、古本として入手可能。   |
| 2                  | 参考書・参考資料等<br>田中公明・吉崎一美『ネパール仏教』（春秋社）<br>※その他、講義の中で指示します。   |
| 担当者                | 学生に対する評価<br>平常点50点、レポート50点。   |
| 川崎一洋               | その他<br>ネパールに旅行することをおすすめします。   |

| 科目名                | 授業の到達目標及びテーマ<br>到達目標：さまざまな宗教の死生観を理解する。<br>テーマ：死後の世界を考える   |
|--------------------|---|
| 世宗界の学<br>宗教<br>(別) | 授業の概要<br>教科書に使用する『大師はいまだおわしますか』は、高野山・蓮華院の住職である添田隆昭師が、弘法大師の入定信仰を出発点として、「死後の世界」について調査、思索されたその記録です。当講義では、『大師はいまだおわしますか』を読みながら、西洋人、東洋人、そして日本人の死生観を考えます。洋の東西や時代を問わず、たくさんの文献や書籍が参照されていますので、それらにできるだけ目を通しながら講義を進めていきます。  |
| 学期                 | 授業計画  |
| 後期                 | 1. オリエンテーション<br>2. 弘法大師の入定信仰（大師との出会い／「入定留身」誰が、いつ、どのようにして思いついたか）<br>3. 臨死体験①（臨死体験の発見—レイモンド・ムーディ研究）<br>4. 臨死体験②（キュブラー・ロスの支持／ワトソンの疑問）<br>5. 臨死体験③（ブラックモアの批判／立花隆の反論）<br>6. インド人の死生観（インド人の臨死体験／臨死体験記としての日本靈異記）<br>7. 仏教の死生観（輪廻転生説の行方）<br>8. 日本人の死生観①（日本人のあの世／怒れる神）<br>9. 日本人の死生観②（日本人にとって仏教とは）<br>10. 日本人の死生観③（法然・親鸞両祖と戒律）<br>11. 日本人の死生観④（恵信尼）<br>12. 日本人の死生観⑤（戒名）<br>13. 死後の世界を考える①（父の死／死者の行方）<br>14. 死後の世界を考える②（あの世から現れる死者／在すが如く死者は語る／夢に現れる大師）<br>15. まとめ<br>※（）内は教科書におけるトピックスです。 |
| 単位数                | テキスト<br>添田隆昭『大師はいまだおわしますか』（高野山出版社）  |
| 2                  | 参考書・参考資料等<br>講義の中で指示します。  |
| 担当者                | 学生に対する評価<br>平常点50点、レポート50点。   |
| 川崎一洋               | その他<br>教科書に使用する『大師はいまだおわしますか』の中には、たくさんの文献や書籍が出てきますので、それらにできるだけ目を通すように心掛けてください。  |

|              |   |
|--------------|---|
| 科目名          | <b>宗教の歴史Ⅰ<br/>(別)</b>   |
| 授業の到達目標及びテーマ | <p>到達目標：「修験道」と呼ばれる宗教形態の歴史を学ぶことにより、日本の宗教の歴史を理解する。</p> <p>テーマ：修験道を学ぶ</p>  |
| 授業の概要        | <p>平成16年(2004)、高野山が吉野・熊野とともに「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界文化遺産に登録されました。これらの地域の文化に大きな影響を与えていたのが、「修験道」といわれる宗教形態です。当講義ではその修験道の教理と歴史を学ぶことにより、日本の宗教の歴史、日本人の宗教観や精神文化などを理解します。</p>   |
| 授業計画         | <ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション</li> <li>日本の仏教史</li> <li>神道の歴史</li> <li>山の宗教</li> <li>宗教と修業</li> <li>神仏習合の歴史</li> <li>役行者伝</li> <li>真言密教と修験道</li> <li>天台密教と修験道</li> <li>山伏のファッショング</li> <li>大峰山の歴史</li> <li>大峰修業</li> <li>各地の修験道の霊場</li> <li>世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」</li> <li>まとめ</li> </ol> |
| 学期           | 前期  |
| 単位数          | 2   |
| 担当者          | 川崎一洋  |

|              |  |
|--------------|--|
| 科目名          | <b>宗教の歴史Ⅱ<br/>(別)</b>  |
| 授業の到達目標及びテーマ | <p>到達目標：世界のさまざまな宗教において実践される巡礼についてび、それを通じて各宗教の教理と歴史を理解する。</p> <p>テーマ：世界の巡礼とその歴史 -四国遍路を中心に-</p>  |
| 授業の概要        | <p>日本で巡礼といえば、「四国八十八ヶ所靈場」や「西国三十三观音札所」を巡るコースが有名ですが、世界各地には、さまざまな宗教に属する多様な巡礼の文化が残されています。当講義では、四国遍路を中心に世界の巡礼の歴史を概観し、宗教と巡礼の関わりを学びます。</p>   |
| 授業計画         | <ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション</li> <li>四国遍路の歴史と諸相①</li> <li>四国遍路の歴史と諸相②</li> <li>四国遍路の歴史と諸相③</li> <li>四国遍路の歴史と諸相④</li> <li>四国遍路の歴史と諸相⑤</li> <li>観音靈場巡礼の歴史と諸相①</li> <li>観音靈場巡礼の歴史と諸相②</li> <li>世界にはどんな宗教があるか?</li> <li>チベット仏教における巡礼</li> <li>中国における仏教聖地巡礼</li> <li>ヒンドゥー教の巡礼</li> <li>イスラム教徒の巡礼</li> <li>ヨーロッパにおけるキリスト教の巡礼</li> <li>まとめ</li> </ol> |
| 学期           | 後期   |
| 単位数          | 2  |
| 担当者          | 川崎一洋   |

|              |  |
|--------------|--|
| 科目名          | <b>国文法Ⅰ</b>  |
| 授業の到達目標及びテーマ | <p>到達目標：文語文法（古典文法）の知識を習得する。</p> <p>テーマ：活用とはどのような現象か。</p>   |
| 授業の概要        | <p>活用語することばとして、動詞・形容詞・形容動詞（以上用言）・助動詞があるが、前期はおもに文法の基礎となる用言の活用を学習する。教員が作成した概説と具体的な問題を解くという形で授業を展開する。文法をわかりやすく解説します。</p>  |
| 授業計画         | <ol style="list-style-type: none"> <li>文法の必要性</li> <li>文語文法と口語文法のちがい</li> <li>文節とはなにか</li> <li>動詞とはどのような品詞か 自動詞と他動詞</li> <li>動詞の活用（1）四段活用</li> <li>動詞の活用（2）上一段活用と上二段活用</li> <li>動詞の活用（3）下一段活用と下二段活用</li> <li>動詞の活用（4）変格活用 ナ変とヲ変</li> <li>動詞の活用（5）変格活用 サ変とカ変</li> <li>形容詞とはどのような品詞か</li> <li>形容詞のク活用とシク活用</li> <li>形容動詞とはどのような品詞か</li> <li>ナリ活用とタリ活用</li> <li>用言の総合問題</li> <li>まとめ</li> </ol> |
| 学期           | 前期   |
| 単位数          | 2  |
| 担当者          | 下西忠  |

|              |   |
|--------------|---|
| 科目名          | <b>国文法Ⅱ</b>   |
| 授業の到達目標及びテーマ | <p>到達目標：正しい敬語の使い方を学ぶ。</p> <p>テーマ：敬語</p>   |
| 授業の概要        | <p>敬語社会の日本において正しい敬語の知識を習得することは必須である。尊敬語・謙譲語・丁寧語とはどのようなものかを学ぶ。古典の敬語の知識も学ぶけれど、とくに現代における敬語も時間をかけて講義したい。実践問題を解きながら、なぜ敬語を使うのか、またその用法はどうかなどを学ぶことにする。</p>  |
| 授業計画         | <ol style="list-style-type: none"> <li>敬語とはなにか なぜ敬語を使うのか</li> <li>敬意の主体（誰が）と対象（誰に）</li> <li>尊敬語とはどのようなものか（1）</li> <li>尊敬語とはどのようなものか（1）</li> <li>謙譲語とはどのようなものか（1）</li> <li>謙譲語とはどのようなものか（2）</li> <li>丁寧語とはどのようなものか</li> <li>総合問題（1）</li> <li>総合問題（2）</li> <li>「申す」の正しい使い方</li> <li>どのような場合に「お」をつけるか</li> <li>確認テスト</li> <li>総合問題（3）</li> <li>総合問題（4）</li> <li>まとめ</li> </ol> |
| 学期           | 後期  |
| 単位数          | 2   |
| 担当者          | 下西忠   |

|        |   |
|--------|---|
| 科目名    | 授業の到達目標及びテーマ  |
|        | 到達目標：語りとしての物語（小説）テクストの生成の機構について理解を深める<br>テーマ：物語構造と物語テクスト  |
| 国語学講義Ⅰ | 授業の概要<br>これまでの研究を踏まえた、物語構造に基づいた、語りとしてのテクスト生成の機構を導き出し、語りの見地から物語（小説）テクストの分類を行う。さらに、いくつかの物語（小説）作品の構造を実際に分析する。物語以外の「語り物」との比較も行う。映画、演劇、漫画等の「語り」についても触れたい。  |
| 学期     | 授業計画  |
| 前期     | <ol style="list-style-type: none"> <li>物語テクストと日常会話テクスト</li> <li>物語テクストの目印</li> <li>物語構造モデル（1）</li> <li>物語構造モデル（2）</li> <li>語りとしての物語（小説）テクストの生成機構</li> <li>語りとしての物語（小説）テクストの分類</li> <li>志賀直哉、『小僧の神様』の構造</li> <li>太宰治、『猿面冠者』の構造</li> <li>村上春樹、『風の歌を聴け』の構造</li> <li>倉知淳、『星降り山莊殺人事件』の構造</li> <li>『和泉式部日記』の構造</li> <li>ドラマ『古畑任三郎』の構造</li> <li>構造の見地からの北原亞以子作品テクスト、宮部みゆき作品テクストの特徴</li> <li>小説の語りと「語り物」の語り</li> <li>まとめ</li> </ol> |
| 単位数    | テキスト  |
| 2      | なし。都度、プリントを配布する。  |
| 担当者    | 参考書・参考資料等<br>適宜、指示、または、配布する。  |
| 上田恭寿   | 学生に対する評価<br>平常点（30%）、授業への参加態度（10%）、および、期末のレポート（60%）による。   |
|        | その他<br>授業の都合により、一部の変更があり得る。   |

|        |   |
|--------|---|
| 科目名    | 授業の到達目標及びテーマ<br>到達目標：日本語の物語テクストと日本文化との関係についての理解を深める<br>テーマ：日本語の物語テクストと日本文化  |
| 国語学講義Ⅱ | <b>授業の概要</b><br>語りとしての日本語の物語（小説）テクストの特質を抽出し、他の文学ジャンルとの共通点、さらに建築や絵画等、他の日本文化に見られる共通点から、日本文化の特質について考察する。   |
| 学期     | <b>授業計画</b><br>1. 物語の構造と語り手の語りの位置<br>2. 語りとしての物語テクスト生成機構<br>3. 物語（小説）における内面表現<br>4. 藤沢周平、『選いしあわせ』テクストにおける語り手<br>5. 北原亞以子テクストにおける語り手<br>6. 『源氏物語』テクストにおける語り手<br>7. 主体の揺らぎと「連接構文」<br>8. 太宰治、『魚腹記』における「る」と「た」<br>9. 日本語物語（小説）における語り手の位置<br>10. 「た」の指示内容<br>11. 日本語物語（小説）テクストの特質<br>12. 他の文学ジャンルにおいて見られる日本語テクストとの共通点<br>13. 他の日本文化に見られる特質との共通点<br>14. 聞く文化としての日本語テクストと日本文化における自己中心的志向性<br>15. まとめ |
| 後期     | <b>テキスト</b><br>なし。都度、プリントを配布。   |
| 単位数    | <b>参考書・参考資料等</b><br>適宜、指示、または、配布。   |
| 2      | <b>学生に対する評価</b><br>平常点（30%）、授業への参加態度（10%）、および期末のレポート（60%）による。   |
| 上田恭寿   | <b>その他</b><br>授業の進行の都合により一部の変更があり得る。  |

|       |  |
|-------|--|
| 科目名   | 授業の到達目標及びテーマ   |
|       | 到達目標：・社会学が蓄積してきた基本的な思考スタイルに触れる。<br>・参考文献を正確に書き写す力を持つ。  |
|       | テーマ：・自己・他者・関係  |
| 社会学 I | 授業の概要<br>テキストには20ほどの社会学者が取り上げられている。これらの中からいくつかを選び、社会学の基本的な問題意識と関連させつつ、その内容を解説していく。   |
| 学期    | 授業計画   |
| 前期    | 1. ガイダンス<br>2. 行為と演技 (1)<br>3. 行為と演技 (2)<br>4. 行為と演技 (3)<br>5. 自己と他者 (1)<br>6. 自己と他者 (2)<br>7. 自己と他者 (3)<br>8. 意味と現実 (1)<br>9. 意味と現実 (2)<br>10. 意味と現実 (3)<br>11. 関係の力学 (1)<br>12. 関係の力学 (2)<br>13. 言語とコミュニケーション (1)<br>14. 言語とコミュニケーション (2)<br>15. まとめ |
| 単位数   | テキスト<br>井上俊・伊藤公雄編『自己・他者・関係』<br>(社会学ベーシックス1) 世界思想社、2000円程度。<br>※生協・書店などで購入しておくこと。   |
| 2     | 参考書・参考資料等<br>関心のある受講者には個別に紹介する。  |
| 担当者   | 学生に対する評価<br>・毎回の授業時に実施する小テスト…50点<br>・定期試験…50点<br>※詳細はガイダンスで説明する。   |
| 藤吉圭二  | その他<br>・テキストを購入しておくこと (試験でも使用する)。<br>・初回に配布するガイダンスプリントを必ず入手しておくこと。<br>・テキストを持参しない者は著しい不利をこうむることがある。  |

|      |   |
|------|---|
| 科目名  | 授業の到達目標及びテーマ  |
|      | <p>到達目標：・現代文化の諸現象を社会学的視点から分析するトレーニングを積む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参考文献を正確に書き写す力を持つ。</li> </ul> <p>テーマ：</p>   |
| 社会学Ⅱ | <b>授業の概要</b>  |
|      | <p>テキストには現代社会を考えるうえで重要な15ほどの文化現象が取り上げられ、その意義やそれを考察するための社会学的視点が紹介されている。これらのうちいくつかを選び、解説していく。</p>   |
| 学期   | <b>授業計画</b>   |
|      | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 流行としての現代文化 (1)</li> <li>3. 流行としての現代文化 (2)</li> <li>4. 流行としての現代文化 (3)</li> <li>5. 流行としての現代文化 (4)</li> <li>6. 流行としての現代文化 (5)</li> <li>7. 民俗としての現代文化 (1)</li> <li>8. 民俗としての現代文化 (2)</li> <li>9. 民俗としての現代文化 (3)</li> <li>10. 民俗としての現代文化 (4)</li> <li>11. 変容する現代文化 (1)</li> <li>12. 変容する現代文化 (2)</li> <li>13. 変容する現代文化 (3)</li> <li>14. 変容する現代文化 (4)</li> <li>15. まとめ</li> </ol> |
| 後期   | <b>テキスト</b>   |
|      | <p>小川伸彦・山泰幸編『現代文化の社会学 入門』<br/>ミネルヴァ書房、3000円程度。</p> <p>※生協・書店などで購入しておくこと。</p>  |
| 単位数  | <b>参考書・参考資料等</b>  |
| 2    | <p>関心のある受講者には個別に紹介する。</p>   |
| 担当者  |   |
| 藤吉圭二 | <b>学生に対する評価</b>   |
|      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の授業時に実施する小テスト…50点</li> <li>・定期試験…50点</li> </ul> <p>※詳細はガイダンスで説明する。</p>  |
|      | <b>その他</b>  |
|      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストを購入しておくこと（試験でも使用する）。</li> <li>・初回に配布するガイダンスプリントを必ず入手しておくこと。</li> </ul>  |

| 科目名   |
|---|
| 人現代の<br>権と人<br>人権<br>別  |
| 授業の到達目標及びテーマ  |
| 到達目標：現代において特に論争の焦点となっている法的権利について、その法的背景なども視野に入れた上で理解すること、及び批判的思考がされること。   |
| テーマ：  |
| 授業の概要   |
| 授業はパワーポイントを利用し講義形式とします。<br>現代社会においては憲法に規定された従来の伝統的な人権の枠組みでは捉えきれない新たな人権が重要となってきています。本講義は、憲法上の権利、特に新しい人権と、権利の現代的展開に焦点を当てながら、法的な側面から現代社会を理解しようとする試みです。   |
| 授業計画  |
| 社会において現代の人権と関わる新たな法的問題が発生すれば、それを優先的に扱いますし、参加する学生諸君の関心にもなるべく、応えていこうと思いますので、適宜変更の可能性があります。  |
| 1. イントロダクション（人権概念）<br>2. 國際的人権保障（紛争と人権）<br>3. 國際的人権保障（國際的な人権保障の枠組み）①<br>4. 國際的人権保障（國際的な人権保障の枠組み）②<br>5. 憲法総論（幸福追求権・自己決定権）<br>6. 医療における自己決定権（治療選択の権利・死ぬ権利）<br>7. 新たな医療技術とそれを用いる権利（子どもを産む権利）①<br>8. 新たな医療技術とそれを用いる権利（子どもを産む権利）②<br>9. 器官移植と臓器の売買？<br>10. クローン技術規制法<br>11. 人の選別と優生思想（選択的堕胎と受精卵診断）①<br>12. 人の選別と優生思想（選択的堕胎と受精卵診断）②<br>13. 公害問題と環境権（日本の環境保護法制）<br>14. 地球温暖化問題と京都議定書（国際社会の取り組み） |
| テキスト  |
| 特に指定しない。  |
| 参考書・参考資料等   |
| 竹下賢・沼口智則・角田猛之・竹村和也『入門法学』（第三版）   |
| 学生に対する評価  |
| 定期試験により60%、授業中のミニッツ・ペーパーや（行った場合には）小テストにより40%<br>授業参加は単位取得の必要条件であり、十分条件ではありません。<br>授業に真剣に参加していない学生には別途個別に課題を課す場合があります。   |
| その他   |
| 受講者は（あるいは大学生はそもそも）新聞や毎日のニュースに关心を持つことが必要です。  |

| 科目名   |
|---|
| 日本憲法  |
| 授業の到達目標及びテーマ  |
| 到達目標：憲法の基本的な枠組みと幾つかの権利に関して基本的な理解を得ること、及び批判的な思考ができる。   |
| テーマ：  |
| 授業の概要   |
| 憲法は国の基本的な方針を定めた法であり、また守るべき理念や価値を定めた法です。本講義では憲法の中の人権規定とそれに関連するほかの法分野について、特に現代社会において問題となっている権利に焦点を当てます。特に、裁判員制度の開始を迎える裁判に社会の関心があり、また、この数年冤罪問題がクローズアップされるなか、検査・裁判における人権に焦点を当てる予定です。さらに、家族関係における平等の問題を取り扱う予定です。   |
| 授業計画  |
| 社会的に注目される新たな法的問題が発生すれば、それを優先的に扱いますし、進度により適宜変更の可能性はありますから、あくまで目安として、   |
| 1. イントロダクション（近代憲法と立憲主義）<br>2. 刑事司法の過程と身体的自由権（検査と被疑者の権利）①<br>3. 刑事司法の過程と身体的自由権（検査と被疑者の権利）②<br>4. 刑事司法の過程と身体的自由権（裁判と被告人の権利）①<br>5. 刑事司法の過程と身体的自由権（裁判と被告人の権利）②<br>6. 国民の司法参加①<br>7. 国民の司法参加②<br>8. 裁判員制度①<br>9. 裁判員制度②<br>10. 財産権と私法①<br>11. 財産権と私法②<br>12. 平等権と家族①<br>13. 平等権と家族②<br>14. 予備 |
| 学期  |
| 後期  |
| 単位数   |
| 2   |
| 担当者   |
| 竹村和也  |
| テキスト  |
| 特に指定しない。  |
| 参考書・参考資料等   |
| 竹下賢・沼口智則・角田猛之・竹村和也『入門法学』（第三版）   |
| 学生に対する評価  |
| 定期試験により60%、授業中のミニッツ・ペーパーや（行った場合には）小テストにより40%<br>授業参加は単位取得の必要条件であり、十分条件ではありません。<br>授業に真剣に参加していない学生には別途個別に課題を課す場合があります。   |
| その他   |
| 受講者は（あるいは大学生はそもそも）新聞や毎日のニュースに关心を持つことが必要です。  |

| 科目名  |
|--|
| 情報処理<br>I<br>II<br>III<br>IV<br>V  |
| 授業の到達目標及びテーマ   |
| 到達目標：人間関係で重要な自己表現能力を養成する。  |
| テーマ：【前期】ホームページ作成とブログ作成<br>【後期】パワーポイントを用いたスピーチとブログ作成  |
| 授業の概要  |
| 【前期】情報処理演習室（パソコン教室）での作業を通じて、ホームページの作成と公開およびブログ作成に習熟する。<br>【後期】情報処理演習室（パソコン教室）での作業を通じて、パワーポイントを用いたスピーチおよびブログ作成に習熟する。  |
| 授業計画   |
| 【前期】<br>1. ガイダンス<br>2. ワープロ能力試験（ワード）<br>3. 電子メールの設定<br>4. 個人ブログの設定<br>5. ホームページ作成（1）<br>6. ホームページ作成（2）<br>7. ホームページ作成（3）<br>8. ホームページ作成（4）<br>9. ホームページ中間発表会<br>10. ホームページ作成（5）<br>11. ホームページ作成（6）<br>12. ホームページ作成（7）<br>13. ホームページ作成（8）<br>14. ホームページ発表会（1）<br>15. ホームページ発表会（2）<br>【後期】<br>1. ガイダンス<br>2. ワープロ能力試験（ワード）<br>3. 電子メールの設定<br>4. 個人ブログの設定<br>5. スピーチ原稿作成（1）<br>6. スピーチ原稿作成（2）<br>7. スピーチ原稿作成（3）<br>8. スピーチ原稿作成（4）<br>9. スピーチ原稿中間発表会<br>10. スライド作成（5）<br>11. スライド作成（6）<br>12. スライド作成（7）<br>13. スライド作成（8）<br>14. スライド発表会（1）<br>15. スライド発表会（2） |
| 学期   |
| 前半<br>通年<br>後期   |
| 単位数  |
| 2<br>4<br>2  |
| 担当者  |
| 藤吉圭二   |
| テキスト   |
| 必要に応じ授業中にプリントを配布する。  |
| 参考書・参考資料等  |
| 授業中に紹介する   |
| 学生に対する評価   |
| ・ホームページ（前期）、スピーチ（後期）のできばえ…40点<br>・ブログ…20点　・期末試験…40点<br>※詳細はガイダンスで説明する。   |
| その他  |
| ・※ 機材の数に限りがあるので定員を超えた場合は初回の授業時に選考を実施する。<br>・※ 初回に配布するガイダンスプリントを必ず入手しておくこと。   |

| 科目名          |
|--------------|
| 授業の到達目標及びテーマ |
| 到達目標：        |
| テーマ：         |
| 授業の概要        |
| 授業計画         |
| 学期           |
| 単位数          |
| テキスト         |
| 参考書・参考資料等    |
| 担当者          |
| 学生に対する評価     |
| その他          |

| 科目名  |
|--|
| 仏密仮教教芸学芸術特術(殊Ⅱ別講)義1A〔仏画〕   |
| 授業の到達目標及びテーマ   |
| 到達目標：芸術作品の素晴らしさを味わい、その深さを見つけ出す自分に気づくこと<br>テーマ：仏画を描く  |
| 授業の概要  |
| まず筆を持って描くことから始めよう。白描図像の制作である。敦煌の仏画を中心に、特色のあるものを時代別に選んで、その形を意識しながら線を書く。受講する者は、筆を持って線を書くことによって、その図像が「なぜ素晴らしいといえるのか」を見発するだろう。芸術作品の素晴らしさを味わい、その深さを見つけ出す自分に気づくよう指導したい。  |
| 授業計画   |
| 1. シラバスの説明、講義の進め方について説明する。<br>2. 基礎1 手の形、顔の形の線の練習 I・II<br>3. 基礎1 手の形、顔の形の線の練習 III・IV<br>4. 基礎1 手の形、顔の形の線の練習 V・VI<br>5. 基礎1 手の形、顔の形の線の練習 VII・VIII<br>6. 基礎1 手の形、顔の形の線の練習 IX・X<br>7. 基礎2 仏・菩薩等の全体を描く I・II<br>8. 基礎2 仏・菩薩等の全体を描く III・IV<br>9. 基礎2 仏・菩薩等の全体を描く V・VI<br>10. 作品 純地金泥の作品を作る I<br>11. 作品 純地金泥の作品を作る II<br>12. 作品 純地金泥の作品を作る III<br>13. 作品 純地金泥の作品を作る IV<br>14. 高野山靈宝館の見学<br>15. 総括 |
| テキスト   |
| コピーを配布する。  |
| 参考書・参考資料等  |
| 授業で指示する。   |
| 学生に対する評価   |
| 書写作品 70% 平常点 30%   |
| その他  |
| 筆・紙等の教材費として 5,000 円個人負担となります。初回に納入してください。<br>どなたも受講できます。   |

| 科目名  |
|--|
| 仏密仮教教芸学芸術特術(殊Ⅱ別講)義2B〔仏画〕   |
| 授業の到達目標及びテーマ   |
| 到達目標：彩色の方面から芸術品の深さを知る。<br>テーマ：仏画を彩色する。   |
| 授業の概要  |
| ここでは仏画を描く基本（線描）を修得した上で、彩色を習います。彩色は説明だけでは理解できませんので、全て実践です。自分で彩色をしながら、各種の仏画を鑑賞し、彩色の方面から芸術品の深さを知ることを目標にします。   |
| 授業計画   |
| 1. シラバスの説明、講義の進め方について説明する。<br>2. 用具をそろえる。<br>3. 膜の溶かし方<br>4. 絵の具を選ぶ<br>5. 平塗りとぼかしの技法<br>6. ぼかしの技法 1<br>7. ぼかしの技法 2<br>8. 豊綱彩色の実習 1<br>9. 豊綱彩色の実習 2<br>10. 豊綱彩色の実習 3<br>11. 豊綱彩色の実習 4<br>12. 豊綱彩色の実習 5<br>13. 豊綱彩色の実習 6<br>14. 鑑賞<br>15. 総括 |
| テキスト   |
| コピーを配布する。  |
| 参考書・参考資料等  |
| 授業で指示する。   |
| 学生に対する評価   |
| 書写作品 70% 平常点 30%   |
| その他  |
| 絵の具・絵の具皿・彩色筆等の教材費として 5,000 円個人負担となります。初回に納入してください。<br>どなたでも受講できます。   |

| 科目名   |
|---|
| 企伝伝統文化科文文化目化文化〔芸能21〕〔芸芸能能〕  |
| 授業の到達目標及びテーマ  |
| 到達目標：【前期】 初歩的な曲の演奏ができるよう、楽譜の読みと奏法の理解を目的とする。<br>テーマ：【前期】 初歩的な曲の合奏と、邦楽の音楽的特徴の理解を目的とする。<br>【後期】 地歌箏曲入門－筝（琴）を弾いてみよう<br>【後期】 地歌箏曲入門－筝で合奏してみよう  |
| 授業の概要   |
| 【前期】 地歌箏曲は、古典芸能でありかつ発展を続ける、世界の諸音楽に比肩する音楽である。本講義は、男性盲人音楽家たちが担ってきた地歌箏曲の歴史に関する講義を交え、筝の演奏実習を中心にして進めいく。<br>【後期】 古代中国から雅楽、古謡、筝等へと展開した樂理に関する講義を交え、筝の演奏実習を中心にして進めいく。日本人の音楽嗜好、感性の働き方、精神性へと、学生諸氏の思考深化をも促したい。  |
| 授業計画  |
| 【前期】<br>1. 筝に触れてみよう、鳴らしてみよう<br>2. 爪、座り方、各部分の名称・演奏 実習<br>3. 地唄とは、筝とは・演奏実習<br>4. 箏の立て方、はずし方・演奏実習<br>5. 楽器についての講義（ビデオ鑑賞）<br>6. 種々奏法と楽譜の記号・演奏実習<br>7. 同上<br>8. 練習曲「さくら」「荒城の月」の 実習<br>9. 同上<br>10. 邦楽の歴史について（講義）<br>11. 「三段の調べ」の実習<br>12. 同上<br>13. 同上<br>14. 同上<br>15. 筆記・実技試験<br>【後期】<br>1. 「三段の調べ」の他パートとの合奏 実習<br>2. 同上<br>3. 「さくら変奏曲」の実習<br>4. 「さくら変奏曲」の他パートとの合奏実習<br>5. 邦楽の歴史について（講義）<br>6. 「笛の音」の実習<br>7. 同上<br>8. 箏の調弦法と邦楽の樂理（講義）<br>9. 学内鑑賞会、もしくはビデオ鑑賞<br>10. 「笛の音」の他パートとの合奏実習<br>11. 各受講生の発表曲復習<br>12. 同上<br>13. 同上<br>14. 同上<br>15. 試験に代えて、受講生の演奏発表会 |
| テキスト  |
| 3期目以降の受講生は、全回「六段の調べ」を実習する。  |
| 参考書・参考資料等   |
| 参考資料は随时コピーで配布する。<br>吉川英史「日本音楽の歴史」創元社 他  |
| 学生に対する評価  |
| 音楽を真剣に楽しむ授業態度 70%、演奏技術 10%、筆記・実技試験 20%<br>但し上記%に関係なく、欠席1回マイナス5点とする  |
| その他   |
| 初心者向けだが、経験者も歓迎する。<br>「筝は女性の彈くもの」という誤った概念があるようだが実態は全く異なる。偏見を捨てて、音楽好きな女性は男女を問わず積極的に受講してほしい。<br>後期は、「地歌箏曲入門－筝を弾いてみよう」（前期）を受講済みの者だけが、受講できる。<br>年間を通じて受講した後、卒業までに更に2期（前期、後期いずれかの）単位を取得した場合、本人が希望し、かつ技能が相当と認められる者には、有料で絃楽教育奨励会認定の「初伝」免許を認免することもある。<br>楽器の数量に限りがあるため受講者数を 20 名に制限する。   |

| 科目名  |
|--|
| 企伝伝統文化科文文化目化文化〔芸能21〕〔芸芸能能〕   |
| 授業の到達目標及びテーマ   |
| 到達目標：茶道は日本の伝統的な文化のひとつである。茶の湯の歴史の理解と、基本的な実技の修得や茶会の体験などをつうじて、茶の精神や美意識について考える。<br>テーマ：茶の湯における主客の心と感応  |
| 授業の概要  |
| 茶道の歴史や師僧についての理解を深めるとともに、実際に茶道の所作や点前を経験・修得したうえで、受講生自らが茶会を企画し実践する。   |
| 授業計画   |
| 【前期】<br>1. ガイダンス<br>2. 講義 茶事のながれ<br>3. 客の所作と心得 1 お茶のいまだき方（薄茶）<br>4. 客の所作と心得 2 席入りの仕方<br>5. 初風炉の茶会<br>6. 講義 茶道史<br>7. 益略点前 1 割稽古<br>8. 益略点前 2 割稽古の復習<br>9. 講義 茶道の道具について<br>10. 益略点前 3 通し稽古<br>11. 益略点前 4 通し稽古<br>12. 益略点前 5 通し稽古<br>13. 講義 茶の湯の思想 1<br>14. 益略点前 6 通し稽古の復習<br>【後期】<br>1. 益略点前の復習 1<br>2. 益略点前の復習 2<br>3. 講義 茶道史 2<br>4. 客の所作と心得 3 お茶のいまだき方（濃茶）<br>5. 茶会の企画と実践 1<br>6. 茶会の企画と実践 2<br>7. 炉開きの茶会<br>8. 茶の湯の思想 2<br>9. 茶会の企画と実践 3<br>10. 茶会の企画と実践 4<br>11. 講義 茶道史 3<br>12. 茶会の企画と実践 5<br>13. 初釜の茶会<br>14. 講義 茶の湯の思想 3<br>15. まとめ |
| テキスト   |
| 必要に応じて資料配布   |
| 参考書・参考資料等  |
| 授業時に紹介   |
| 学生に対する評価   |
| 出席日数とレポートなどの提出物の内容を総合して評価します。  |
| その他  |
| 実習の費用は前期・後期各 3000 円必要です。<br>茶室に入る人数に限りがありますので、受講生を制限する場合もあります。   |

|  |  |  |
|--|--|--|
| 科目名  | 授業の到達目標及びテーマ   |  |
| 企画科目   | 到達目標：【前期】日本の伝統文化である華道の歴史の理解と基本的実技の修得。<br>【後期】高野山の伝統行事(年中行事)に生けられる伝統華・莊嚴真華の理解<br>テーマ：【前期】日本の華道史と華道実技の基本<br>【後期】華道高野山の代表華である真華の修得  |  |
| 〔華道〕／〔伝統文化〕  | 授業の概要<br>【前期】仏様にお花をお供えしたのが始まりとされる日本の華道の歴史を現代まで解説すると共に、華道の基本の解説と実技の実習を行なう。<br>【後期】高野山の伝統行事が行なわれる会場を莊嚴する真華の解説と真華の実技実習。   |  |
| 授業計画   |  |  |
| 〔前期〕   | 【後期】   |  |
| 1.ガイダンス<br>2.華道高野山についての解説<br>3.供華様式から投入花の解説<br>4.投入花から現代花の解説<br>5.盛花の解説<br>6.盛花の実技実習<br>7.盛花の変化態の解説と実習<br>8.投入花の解説と実習<br>9.投入花の変化態の解説と実習<br>10.格花の解説と実習<br>11.格花の変化態の解説と実習<br>12.自由化の解説と実習<br>13.自由化のテーマのもとめ方と実習<br>14.実技テスト                 | 1.真華の解説<br>2.五段華の解説<br>3.五段華の実技実習<br>4.真華実習(1)<br>5.真華実習(2)<br>6.二つ真の解説<br>7.仏生会の華の解説<br>8.白羽の矢竹の解説<br>9.小品真華の解説と実習<br>10.法印転衣式の華の解説<br>11.合真の解説<br>12.元三の花の開設<br>13.万年青の解説と実技<br>14.実技テスト |  |
| 学期   | 前通年後期  |  |
| 単位数  | 2+1  |  |
| 担当者  | 五味和樹   |  |
| 参考書・参考資料等  | 華道高野山教本  |  |
| テキスト   | 特に無し   |  |
| 学生に対する評価   | 実技定期試験50%、小試験20%、出席30%   |  |
| その他  | 実技実習時に花材費800円～1,000円必要です。  |  |
| 科目名  | 授業の到達目標及びテーマ   |  |
| 企画科目   | 到達目標：【前期】宗教舞踊の基礎を身につける。<br>【後期】練習を積み重ねることにより、心・技・体を磨き、宗教舞踊の楽しさ(法悦)を感じる。<br>テーマ：【前期】美しい宗教音楽御詠歌に合わせて舞いましょう。<br>【後期】宗教舞踊を舞うことにより、自分自身と見る人の心を癒すことを感じます。  |  |
| 〔舞踊〕／〔宗教芸能〕  | 授業の概要  |  |
| 授業計画   |  |  |
| 〔前期〕   | 【後期】   |  |
| 1.宗教舞踊を見てみる。宗教舞踊の基本的理念・法具(持ち物)の扱い方の解説。<br>2.教典の譜の見方を学ぶ。「同行二人」により身体の動かし方の基本を学ぶ。<br>3.「同行二人」<br>4.「同行二人」仕上げ<br>5.「遍照尊」<br>6.「遍照尊」<br>7.「同行二人」<br>8.「遍照尊」<br>9.「遍照尊」<br>10.「遍照尊」<br>11.「遍照尊」<br>12.「遍照尊」<br>13.「遍照尊」<br>14.「遍照尊」<br>15.「遍照尊」仕上げ | 1.「いろは歌」<br>2.「楊柳」<br>3.「楊柳」<br>4.「楊柳」<br>5.「楊柳」<br>6.「楊柳」<br>7.「楊柳」仕上げ<br>8.「楊柳」仕上げ<br>9.「相互供養和讃」<br>10.「相互供養和讃」<br>11.「相互供養和讃」<br>12.「相互供養和讃」<br>13.「相互供養和讃」仕上げ<br>14.復習曲<br>15.復習曲      |  |
| 学期   | 前通年後期  |  |
| 単位数  | 1+1  |  |
| 担当者  | 辻高緒  |  |
| 参考書・参考資料等  | 高野山金剛流宗教舞踊基本教典<br>はじめての「高野山宗教舞踊」入門   |  |
| 学生に対する評価   | 出席20% 実技評価60% 筆記試験20%  |  |
| その他  | ・扇は貸与準備あり。<br>・前期・後期履修者は舞階昇補できる。<br>・全国奉詠舞大会に学園(大学)奉舞できる。  |  |
| 科目名  | 授業の到達目標及びテーマ   |  |
| 企画科目   | 到達目標：将来の御詠歌指導者の養成を目指す。<br>テーマ：心に響く宗教音楽として現代にも広く伝える御詠歌を学ぶ。  |  |
| 〔詠歌〕／〔宗教芸能〕  | 授業の概要  |  |
| 〔詠歌〕   | 【前期】スライドショウ等で譜の見方、楽理などを解りやすく解説する。楽器等を併用し親しみやすい御詠歌の指導方法を学ぶ。和讃と詠歌の違いを知る。<br>【後期】前期の目標・テーマの完成を目指すために基礎となる詠歌・和讃を学び積極的に唱えるよう研鑽を深める。   |  |
| 授業計画   |  |  |
| 〔前期〕   | 【後期】   |  |
| 1.御詠歌・和讃の概要(譜の見方・歴史など)追弔和讃<br>2.追弔和讃・楊柳(樂理)<br>3.楊柳<br>4.楊柳<br>5.悠久の峰(新曲)楊柳部分も<br>6.悠久の峰(樂理)<br>7.悠久の峰仕上げ<br>8.龍華(樂理)<br>9.龍華<br>10.修行和讃(龍華部分)<br>11.修行和讃(龍華部分)<br>12.追弔和讃・楊柳・悠久の峰・龍華・修行和讃復習<br>13.実技及び筆記試験                                  | 1.前期総括<br>2.高野山開創奉讃歌<br>3.高野山開創奉讃歌<br>4.梵音<br>5.梵音<br>6.法悦歎喜和讃<br>7.法悦歎喜和讃<br>8.法悦歎喜和讃・樂理<br>9.妙音<br>10.妙音・樂理<br>11.妙音<br>12.哀別離苦和讃<br>13.哀別離苦和讃<br>14.後期履修曲復習<br>15.実技・筆記試験               |  |
| 学期   | 前通年後期  |  |
| 単位数  | 1+1  |  |
| 担当者  | 上山・辻・村上  |  |
| 参考書・参考資料等  | 金剛講必携・鈴鉦のひびき・高野山金剛流詠歌・和讃の解説  |  |
| 学生に対する評価   | 実技・筆記試験70% 出席30%   |  |
| その他  | 1.後期履修希望者は前期履修の後、受講すること。<br>2.詠階は1年間履修すると准教師、2年間履修すると詠修、3年間履修すれば詠教、4年間履修すれば詠範を限りとして与える。  |  |

|   |   |  |
|---|---|--|
| 科目名   | 授業の到達目標及びテーマ  |  |
| 企画科目  | 到達目標：高野山内に伝わる仏教美術を学び、正しい仏教美術に対する知識を培うことを到達目的とする。<br>テーマ：高野山における密教美術の研究。 |  |
| 〔舞踊〕／〔宗教芸能〕   | 授業の概要   |  |
| 授業計画  |   |  |
| 〔前期〕  | 【後期】  |  |
| 1.高野山の密教仏画(I) -両界曼荼羅と別尊曼荼羅<br>2.高野山の密教仏画(II) -密教の仏菩薩<br>3.高野山の密教仏画(III) -明王<br>4.高野山の密教仏画(IV) -密教の天部<br>5.高野山の密教仏画(V) -密教図像<br>6.高野山の仏像(I) -板彌曼荼羅<br>7.高野山の仏像(II) -密教の仏菩薩<br>8.高野山の仏像(III) -明王<br>9.高野山の仏像(IV) -密教の天部<br>10.高野山の仏具 -密教法具<br>11.高野山靈宝館での作品研究<br>12.高野山靈宝館での作品研究<br>13.高野山靈宝館での作品研究<br>14.高野山靈宝館での作品研究<br>15.高野山靈宝館での作品研究 |   |  |
| 学期  | 前期  |  |
| 単位数   | 2   |  |
| 担当者   | 副緒任方静啓慈介  |  |
| 参考書・参考資料等   | 毎回プリントを配布する。  |  |
| 学生に対する評価  | 出席率を最も重視し、授業に対する取り組み方とレポートで評価する。  |  |
| その他   | 履修する学生は社会経験と就業経験を身につけるために、講義とは別に指示に従って高野山靈宝館の受付や案内業務を体験する。              |  |

|                  |  |  |
|------------------|--|--|
| 科目名              | 授業の到達目標及びテーマ<br>到達目標：僧侶としての基礎を学ぶ<br>テーマ：道場莊嚴の基礎  |  |
| 法法法式式式           | 授業の概要<br>真言宗の僧侶として必要な道場莊嚴の基礎知識と道場莊嚴の意識を解説する。   |  |
| (別) / 法式Ⅱ        | 授業計画<br>【前期】<br>1. 講義内容の説明<br>2. 道場莊嚴の解説並びに六種供養について(1)<br>3. 道場莊嚴の解説並びに六種供養について(2)<br>4. 道場莊嚴の解説並びに六種供養について(3)<br>5. 道場莊嚴の解説並びに六種供養について(4)<br>6. 道場莊嚴の解説並びに六種供養について(5)<br>7. 道場莊嚴の解説並びに六種供養について(6)<br>8. 道場莊嚴の解説並びに六種供養について(7)<br>9. 道場莊嚴の解説並びに六種供養について(8)<br>10. 道場莊嚴の解説並びに六種供養について(9)<br>11. 道場莊嚴の解説並びに六種供養について(10)<br>12. 道場莊嚴の解説並びに六種供養について(11)<br>13. 道場莊嚴の解説並びに六種供養について(12)<br>14. 道場莊嚴の解説並びに六種供養について(13)<br>15. 前期試験<br>【後期】<br>1. 講義内容の説明<br>2. 坦莊嚴の解説(1)<br>3. 坦莊嚴の解説(2)<br>4. 坦莊嚴の解説(3)<br>5. 坦莊嚴の解説(4)<br>6. 坦莊嚴の解説(5)<br>7. 坦莊嚴の解説(6)<br>8. 坦莊嚴の解説(7)<br>9. 坦莊嚴の解説(8)<br>10. 坦莊嚴の解説(9)<br>11. 坦莊嚴の解説(10)<br>12. 坦莊嚴の解説(11)<br>13. 山内緒法会の解説(1)<br>14. 山内緒法会の解説(2)<br>15. 後期試験 |  |
| 学期               |  |  |
| 前期年齢             |  |  |
| 単位数              |  |  |
| 1<br>2 +<br>1    |  |  |
| 担当者              |  |  |
| 中<br>西<br>雄<br>泰 | テキスト<br>大山公淳著『真言宗法儀解説』<br>参考書・参考資料等<br>学生に対する評価<br>定期試験 80% 平常点 20%<br>その他   |  |
| 科目名              | 授業の到達目標及びテーマ<br>到達目標：基本の法要となる理趣三昧法会に使われる声明を研鑽する<br>テーマ：僧侶として必要な声明を基礎から学ぼう  |  |
| 声明明              | 授業の概要<br>日本音楽の基礎となった仏教音楽の「声明」を、我々が法要などで用いる「南山進流」声明を基礎の導入部分から学ぶ。  |  |
| (別) / 声明         | 授業計画<br>【前期】<br>1. 声明の楽譜、音階、演奏方法(旋律型)の解説及びオリエンテーション<br>2. 三札・<br>3. 四智梵語<br>4. 四智梵語・<br>5. 大日讃・<br>6. 大日讃・<br>7. 不動讃<br>8. 四智漢語<br>9. 四智漢語・心略漢語<br>10. 心略漢語・<br>11. 仏讃<br>12. 仏讃・散華(初段目)<br>13. 散華<br>14. 散華(二段目)<br>15. 散華(二段目)<br>【後期】<br>1. 声明の楽譜、音階等音楽理論及びオリエンテーション<br>2. 散華(3段目)<br>3. 散華(3段目)<br>4. 対揚<br>5. 対揚<br>6. 対揚<br>7. 対揚<br>8. 唱礼(金剛界)<br>9. 唱礼<br>10. 唱礼<br>11. 唱礼<br>12. 理趣経(中曲)<br>13. 理趣経(中曲)<br>14. 理趣経(中曲)<br>15. 理趣経(中曲)   |  |
| 学期               |  |  |
| 前期年齢             |  |  |
| 単位数              |  |  |
| 1<br>2 +<br>1    |  |  |
| 担当者              | テキスト<br>宮野宥志編『南山進流声明類聚・附伽陀』(注、必ず同一の声明類聚を購入又は持参する事)<br>※生協で購入可<br>参考書・参考資料等<br>小山公淳著『真言宗法儀解説』※生協で購入可  |  |
| 辻<br>秀<br>道      | 学生に対する評価<br>随時小テストを実施する。(実施日等は授業中に伝達する)<br>出席 30%、平常点 20%、小テスト 50 パーセント<br>その他<br>筆記用具は鉛筆(シャープペンシル)等、後で修正出来る筆記用具を必ず持参すること。<br>※後期を履修する者は、前期も履修すること。  |  |

|                  |  |  |
|------------------|--|--|
| 科目名              | 授業の到達目標及びテーマ<br>到達目標：布教原理の学数と布教実習の体験を通して教化伝道の重要性を認識する。<br>テーマ：布教の基本を学ぶ。  |  |
| 布布布教教教           | 授業の概要<br>本講義は布教の入門的な役割を果たす科目である。布教の基礎知識を身につけ真言宗教師(僧侶)としての意識向上を図る。  |  |
| (別) / 布教Ⅱ        | 授業計画<br>【前期】<br>1. 講義の概要について解説する<br>2. 布教伝道の精神<br>3. 布教の目的<br>4. 布教の任務<br>5. 仏教の布教伝道<br>6. 真言宗の布教理念<br>7. 信仰心の喚起<br>8. 礼拝の実践<br>9. 安心の獲得<br>10. 教化活動の実例<br>11. 布教の対象<br>12. 布教の種類<br>13. 説法の十事<br>14. 布教資料について<br>15. 真言宗布教史概説<br>【後期】<br>1. 布教原稿の書き方<br>2. 教材収集の方法<br>3. 教材のあつかい方<br>4. 布教実修(発表)<br>5. 同上<br>6. 同上<br>7. 同上<br>8. 同上<br>9. 同上<br>10. 同上<br>11. 同上<br>12. 同上<br>13. 高野山開創の意義<br>14. 布教作法とその心得<br>15. 講義の総括 |  |
| 学期               |  |  |
| 前期年齢             |  |  |
| 単位数              |  |  |
| 1<br>2 +<br>1    | テキスト<br>寺河俊海著『現代布教の理論と実際』高野山出版社<br>参考書・参考資料等<br>適時プリントにて配布する<br>学生に対する評価<br>レポート(文書布教)・布教実習(発表) 50% 授業参加(態度重視)<br>50%で評価する<br>その他<br>前・後期を通して受講することが望ましい   |  |
| 橋<br>本<br>真<br>人 | 授業の到達目標及びテーマ<br>到達目標：真言宗の常用經典の読誦法(お経の読み方)の習得。<br>記る本尊に応じて、さまざまな真言や陀羅尼が読誦されます。<br>常用の諸真言や陀羅尼を読誦出来るよう学びます。<br>真言宗で用いる經典に関する基礎知識と『般若心經秘鍵』など祖師の典籍も学びます。<br>テーマ：常用經典の読誦実習   |  |
| 科目名              | 授業の概要<br>「理趣経」、「観音経」、「梵網経」を中心に、寺院日常の勤行・法要などを用いる諸經典の読誦法を習得し、順次『般若心経』や『立義分』など短い偈文などを暗誦できるように務めます。<br>また、僧侶志望者の必要性を鑑み、四度加行に用いる『金胎礼懺』「三陀羅尼」読誦に務めます。<br>回忌法要やお盆の棚経などの日常の檀務・年忌法要についても、その意義と実践を学びます。  |  |
| 常常常用用經經經典典       | 授業計画<br>【前期】<br>『真言宗常用諸經要聚』に収録される經典や偈文の読誦法を順次教授し、稽古します。また、読誦する經典や偈文の内容(意味)を簡単に概説します。<br>「開經偈」、「懺悔文」、「回向文」、「札文」<br>【理趣経】<br>【梵網経】<br>【觀音経】<br>【般若心経】、「舍利札」、「立義分」<br>【九条錫杖】<br>【三陀羅尼】など<br>【般若心經秘鍵】の読誦<br>※「お経は耳で学ぶもの」ともいわれます。法要として多人数での讀誦を知るため、時間的余裕が取れれば、高野山内の勤行への参加や法会の見学など、講義の時間以外の学外授業も行う予定です。  |  |
| 学期               |  |  |
| 前期年齢             |  |  |
| 単位数              |  |  |
| 1<br>2 +<br>1    | テキスト<br>中川善教編『真言宗常用諸經要聚』<br>その他、資料を配布する<br>参考書・参考資料等<br>必要に応じて講義の中で指示します。<br>学生に対する評価<br>講義に臨む姿勢 50%、実技・筆記試験 50%<br>その他<br>講義には、念珠と輪袈裟を持参して下さい。<br>また、御籠の金堂で開壇される「結縁灌頂」に入壇することを原則として義務付けます。  |  |
| 宮<br>田<br>永<br>明 |  |  |

|   |  |  |   |
|---|--|--|---|
| 科目名   | 授業の到達目標及びテーマ<br>到達目標：阿息観の修得<br>テーマ：阿息観の理論と実習   | 科目名  | 授業の到達目標及びテーマ<br>到達目標：阿字観の修得<br>テーマ：阿字観の理論と実習  |
| 観企観<br>法画法<br>の科Ⅰ<br>理目<br>論「<br>と阿<br>息観<br>」<br>(別) | 授業の概要<br>阿息観の前行と位置づけられている阿息観について、その理論を解説するとともに実習をおこなう。<br>テキストにしたがって講義を進める。  | 観企観<br>法画法<br>の科Ⅱ<br>理目<br>論「<br>と月<br>輪観<br>」<br>(別)<br>阿<br>字<br>観 | 授業の概要<br>阿息観を踏まえて、月輪観と阿字観について、その理論を解説するとともに実習をおこなう。   |
| 学期  | 授業計画   | 学期   | 授業計画  |
| 前期  | 1. オリエンテーション<br>2. 阿息観と悟り<br>3. 真言密教と釈迦<br>4. 覚想の目的と種類<br>5. 修行の基本<br>6. 弘法大師空海の宗教体験<br>7. 阿息観について<br>8. 阿息観について<br>9. 阿息観の実習<br>10. 阿息観の実習<br>11. 討論<br>12. 阿息観の実習<br>13. 阿息観の現代的意義<br>14. 阿息観の現代的意義<br>15. まとめ | 後期   | 1. オリエンテーション<br>2. 阿息観について<br>3. 阿息観の実習<br>4. 月輪観について<br>5. 月輪観について<br>6. 月輪観実習<br>7. 『大日經』と阿字<br>8. 阿字観について<br>9. 阿字観について<br>10. 阿字観実習<br>11. 自由討論<br>12. 阿字観の口訣<br>13. 阿字観の口訣<br>14. 阿字観実習<br>15. まとめ |
| 単位数   | テキスト<br>山崎泰廣『阿字観瞑想入門』(春秋社)※生協取り扱い  | 単位数  | テキスト<br>山崎泰廣『阿字観瞑想入門』(春秋社)※生協取り扱い   |
| 2 1   | 参考書・参考資料等<br>『密教福祉 I』『密教福祉 II』(密教福祉研究会編)   | 2 1  | 参考書・参考資料等   |
| 担当者   | 学生に対する評価<br>期末レポート 60%、授業 20%、討論小テスト 20%   | 担当者  | 学生に対する評価<br>期末レポート 60%、授業出席 20%、討論小テスト 20%  |
| 佐<br>藤<br>隆<br>彦                                      | その他  | 佐<br>藤<br>隆<br>彦   | その他   |

|                  |   |                  |   |
|------------------|---|------------------|---|
| 科目名              | 授業の到達目標及びテーマ<br>到達目標：真言密教の阿闍梨となるための伝法灌頂への入壇に必修となる、四度加行の実修を行い、作法の習熟を目指す。<br>テーマ：中院流四度加行の実習   | 科目名              | 授業の到達目標及びテーマ<br>到達目標：真言密教の阿闍梨となるための伝法灌頂への入壇に必修となる、四度加行の実修を行い、作法の習熟を目指す。<br>テーマ：中院流四度加行の実習   |
| 加行Ⅰ              | 授業の概要<br>伝法灌頂入壇の前行となる四度の加行を、前期（理趣経・護身法・十八道・金剛界）と後期（胎藏・護摩）の2期に分けて実修する。その中で、真言宗僧侶の基礎として朝夕の勤行などを通して法要の実践、また集団での生活を行うことで僧侶としての規範を身につける。   | 加行Ⅱ              | 授業の概要<br>伝法灌頂入壇の前行となる四度の加行を、前期（理趣経・護身法・十八道・金剛界）と後期（胎藏・護摩）の2期に分けて実修する。その中で、真言宗僧侶の基礎として朝夕の勤行などを通して法要の実践、また集団での生活を行うことで僧侶としての規範を身につける。   |
| 学期               | 授業計画<br>【前期】 理趣経・護身法・十八道・金剛界<br>【後期】 胎藏・護摩<br><br>大阿様よりの伝授に従って、順次に行法を実修する。<br>各作法等においては隨時説明を加え、真言僧としての基礎となる行法修法の実修を行う。<br>作法の習熟を目的として、指導を行う。<br>また朝夕の勤行など、僧侶としての基礎を習得する。          | 学期               | 授業計画<br>【前期】 理趣経・護身法・十八道・金剛界<br>【後期】 胎藏・護摩<br><br>大阿様よりの伝授に従って、順次に行法を実修する。<br>各作法等においては随时説明を加え、真言僧としての基礎となる行法修法の実修を行う。<br>作法の習熟を目的として、指導を行う。<br>また朝夕の勤行など、僧侶としての基礎を習得する。          |
| 集中               | テキスト<br>中川善教編『四度加行次第』   | 集中               | テキスト<br>中川善教編『四度加行次第』   |
| 単位数              | 参考書・参考資料等<br>『中院流初心行者行様指南』<br>その他、受講前に適宜指示。   | 単位数              | 参考書・参考資料等<br>『中院流初心行者行様指南』<br>その他、受講前に適宜指示。   |
| 2                | 学生に対する評価<br>修法の習熟度、加行中に使うテスト、修法や勤行に臨む姿勢や生活態度などを総合して評価。  | 2                | 学生に対する評価<br>修法の習熟度、加行中に使うテスト、修法や勤行に臨む姿勢や生活態度などを総合して評価。  |
| 担当者              | その他<br>事前に得度・授戒を済ませ、「常用經典」・「法式」・「声明」の講義を受講の上、十分に習熟しておくこと。<br>行法の次第を読解のためにも、漢文を読むことができるようにしておくこと。<br>加行の実修は真言僧としての基礎をなすものであり、真摯に取り組む姿勢が必要とされる。<br>事前に行う説明会に必ず出席し、健康に十分留意して加行に臨むこと。 | 担当者              | その他<br>事前に得度・授戒を済ませ、「常用經典」・「法式」・「声明」の講義を受講の上、十分に習熟しておくこと。<br>行法の次第を読解のためにも、漢文を読むことができるようにしておくこと。<br>加行の実修は真言僧としての基礎をなすものであり、真摯に取り組む姿勢が必要とされる。<br>事前に行う説明会に必ず出席し、健康に十分留意して加行に臨むこと。 |
| 渕<br>田<br>雲<br>溪 |   | 渕<br>田<br>雲<br>溪 |   |

|                             |  |      |   |      |   |       |                                     |       |                              |
|-----------------------------|--|------|---|------|---|-------|-------------------------------------|-------|------------------------------|
| 科目名                         | 授業の到達目標及びテーマ   |      |   |      |   |       |                                     |       |                              |
| 法企法式画式上科上級目級Ⅰ<br>別法式法上式級上級Ⅱ | <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>到達目標：修法における次第の組み立てを理解し、その行法をより深めることを目的とし、重ねて真言宗を代表する密教法会たる理趣三昧法会を実修し、職衆及び導師の心得を身につける。</p> <p>テーマ：行法や莊嚴の理解と理趣三昧法会の実修</p>   |      |   |      |   |       |                                     |       |                              |
| 授業の概要                       | <p>四度の加行において自らが実践した所の十八道や金剛・胎藏の両部の次第、護摩の次第における行法の展開や内容を考察し、行法をより深く実践できるように試みる。</p> <p>また、理趣三昧法会の実践をとおして、実際の法要の流れを理解し、導師や職衆としての作法を習熟する。</p>   |      |   |      |   |       |                                     |       |                              |
| 授業計画                        | <table border="1"> <tr> <td>【前期】</td> <td>道場や壇上の莊嚴の解説・実践をし、加えて行法の基本たる十八道の次第を解説する。</td> </tr> <tr> <td>【後期】</td> <td>護摩の次第を解説する。また、伝法灌頂に入壇後、理趣経法の伝授を受け、交代で導師を務めて法会を実修。</td> </tr> <tr> <td>【その他】</td> <td>追悼法会、また報恩日の法会に職衆としての積極的な参加(出仕)を求める。</td> </tr> <tr> <td>【その他】</td> <td>報恩日の法会に職衆としての積極的な参加(出仕)を求める。</td> </tr> </table> | 【前期】 | 道場や壇上の莊嚴の解説・実践をし、加えて行法の基本たる十八道の次第を解説する。 | 【後期】 | 護摩の次第を解説する。また、伝法灌頂に入壇後、理趣経法の伝授を受け、交代で導師を務めて法会を実修。 | 【その他】 | 追悼法会、また報恩日の法会に職衆としての積極的な参加(出仕)を求める。 | 【その他】 | 報恩日の法会に職衆としての積極的な参加(出仕)を求める。 |
| 【前期】                        | 道場や壇上の莊嚴の解説・実践をし、加えて行法の基本たる十八道の次第を解説する。  |      |   |      |   |       |                                     |       |                              |
| 【後期】                        | 護摩の次第を解説する。また、伝法灌頂に入壇後、理趣経法の伝授を受け、交代で導師を務めて法会を実修。  |      |   |      |   |       |                                     |       |                              |
| 【その他】                       | 追悼法会、また報恩日の法会に職衆としての積極的な参加(出仕)を求める。  |      |   |      |   |       |                                     |       |                              |
| 【その他】                       | 報恩日の法会に職衆としての積極的な参加(出仕)を求める。   |      |   |      |   |       |                                     |       |                              |
| 学期                          | 授業の概要  |      |   |      |   |       |                                     |       |                              |
| 前期年後期                       | 生涯発達という視点から、人間の心身の発達について理解を深める。  |      |   |      |   |       |                                     |       |                              |
| 単位数                         | 授業計画   |      |   |      |   |       |                                     |       |                              |
| 1<br>2 + 1                  | 1. オリエンテーションと発達の理論<br>2. 知覚の発達と描画の発達<br>3. 運動能力と身体の発達<br>4. 情緒・感情の発達<br>5. 自動機の認知発達<br>6. 青少年期以後の認知発達<br>7. 愛着と養育態度<br>8. 友人関係の発達<br>9. 知能の発達<br>10. 言語能力の発達<br>11. 動機づけの発達<br>12. 人格と自我の発達<br>13. 性役割と性行動の発達<br>14. 道徳性と向社会的行動の発達<br>15. 発達の理論と障害   |      |   |      |   |       |                                     |       |                              |
| 担当者                         | テキスト   |      |   |      |   |       |                                     |       |                              |
| 渕田雲溪                        | 川島一夫編『図でよむ心理学 発達』福村出版  |      |   |      |   |       |                                     |       |                              |
| 授業の到達目標及びテーマ                | 参考書・参考資料等  |      |   |      |   |       |                                     |       |                              |
| 社会心理学                       | 学生に対する評価   |      |   |      |   |       |                                     |       |                              |
| 社会心理学                       | 出席と定期テスト   |      |   |      |   |       |                                     |       |                              |
| 授業の概要                       | その他  |      |   |      |   |       |                                     |       |                              |
| 授業計画                        | 坂田真穂   |      |   |      |   |       |                                     |       |                              |
| 学年                          | 学生に対する評価   |      |   |      |   |       |                                     |       |                              |
| 前期                          | 出席と定期テスト   |      |   |      |   |       |                                     |       |                              |
| 単位数                         | その他  |      |   |      |   |       |                                     |       |                              |
| 2                           | 参考書・参考資料等  |      |   |      |   |       |                                     |       |                              |
| 担当者                         | 参考書・参考資料等  |      |   |      |   |       |                                     |       |                              |
| 坂田雲溪                        | 学生に対する評価   |      |   |      |   |       |                                     |       |                              |
| 授業の到達目標及びテーマ                | 出席と定期テスト   |      |   |      |   |       |                                     |       |                              |
| 社会心理学                       | その他  |      |   |      |   |       |                                     |       |                              |

|              |  |
|--------------|--|
| 科目名          | 授業の到達目標及びテーマ   |
| 社会心理学        | <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>社会で生きる人間のいとなみを個人および集団の両方から学習する。</p>   |
| 授業の概要        | <p>授業の概要</p> <p>ワークなどを交えながら、個人・対人関係・集団といった社会心理学における基礎テーマの理解を深める。</p>   |
| 授業計画         | <p>授業の概要</p> <p>学校における教育相談活動（教員及びスクールカウンセラー）において必要とされる知識と態度を学ぶ。発達の視点、家族の支援法、精神疾患の理解など、具体的な事例を通じて心理的援助活動の一端を学んでいく。</p>  |
| 学期           | 授業計画   |
| 前期           | 1. 学校教育と臨床心理学：歴史的背景を知る<br>2. スクールカウンセリングの視点と学校教育の視点<br>3. 児童期の発達と学校教育（1）<br>4. 児童期の発達と学校教育（2）<br>5. 春春期・青年期の発達と学校教育（1）<br>6. 春春期・青年期の発達と学校教育（2）<br>7. 児童・生徒の問題行動への理解と対応（総論）<br>8. 不登校・ひきこもりの理解と対応（各論）<br>9. 精神疾患の理解と対応（各論）<br>10. 軽度発達障害の理解と対応（各論）<br>11. 虐待の理解と対応（各論）<br>12. 非行の理解と対応（各論）<br>13. 自傷行為・自殺の理解と対応（各論）<br>14. いじめと自殺（各論）<br>15. まとめ |
| 単位数          | テキスト   |
| 2            | かしまえりこ・神田橋條治（共著）『スクールカウンセリング モデル100例』創元社,2006  |
| 担当者          | 参考書・参考資料等  |
| 坂田雲溪         | 適時、紹介する。   |
| 授業の到達目標及びテーマ | 学生に対する評価   |
| 社会心理学        | 平常点40%・期末試験60%   |
| 授業の概要        | その他  |
| 授業計画         | その他  |
| 学期           | 参考書・参考資料等  |
| 前期           | 参考書・参考資料等  |
| 単位数          | 参考書・参考資料等  |
| 2            | 参考書・参考資料等  |
| 担当者          | 参考書・参考資料等  |
| 坂田雲溪         | 参考書・参考資料等  |
| 授業の到達目標及びテーマ | 学生に対する評価   |
| 社会心理学        | 出席と定期テスト   |
| 授業の概要        | その他  |
| 授業計画         | その他  |
| 学期           | 参考書・参考資料等  |
| 前期           | 参考書・参考資料等  |
| 単位数          | 参考書・参考資料等  |
| 2            | 参考書・参考資料等  |
| 担当者          | 参考書・参考資料等  |
| 坂田雲溪         | 参考書・参考資料等  |
| 授業の到達目標及びテーマ | 学生に対する評価   |
| 社会心理学        | 出席と定期テスト   |
| 授業の概要        | その他  |
| 授業計画         | その他  |
| 学期           | 参考書・参考資料等  |
| 前期           | 参考書・参考資料等  |
| 単位数          | 参考書・参考資料等  |
| 2            | 参考書・参考資料等  |
| 担当者          | 参考書・参考資料等  |
| 坂田雲溪         | 参考書・参考資料等  |
| 授業の到達目標及びテーマ | 学生に対する評価   |
| 社会心理学        | 出席と定期テスト   |
| 授業の概要        | その他  |
| 授業計画         | その他  |
| 学期           | 参考書・参考資料等  |
| 前期           | 参考書・参考資料等  |
| 単位数          | 参考書・参考資料等  |
| 2            | 参考書・参考資料等  |
| 担当者          | 参考書・参考資料等  |
| 坂田雲溪         | 参考書・参考資料等  |
| 授業の到達目標及びテーマ | 学生に対する評価   |
| 社会心理学        | 出席と定期テスト   |
| 授業の概要        | その他  |
| 授業計画         | その他  |
| 学期           | 参考書・参考資料等  |
| 前期           | 参考書・参考資料等  |
| 単位数          | 参考書・参考資料等  |
| 2            | 参考書・参考資料等  |
| 担当者          | 参考書・参考資料等  |
| 坂田雲溪         | 参考書・参考資料等  |
| 授業の到達目標及びテーマ | 学生に対する評価   |
| 社会心理学        | 出席と定期テスト   |
| 授業の概要        | その他  |
| 授業計画         | その他  |
| 学期           | 参考書・参考資料等  |
| 前期           | 参考書・参考資料等  |
| 単位数          | 参考書・参考資料等  |
| 2            | 参考書・参考資料等  |
| 担当者          | 参考書・参考資料等  |
| 坂田雲溪         | 参考書・参考資料等  |
| 授業の到達目標及びテーマ | 学生に対する評価   |
| 社会心理学        | 出席と定期テスト   |
| 授業の概要        | その他  |
| 授業計画         | その他  |
| 学期           | 参考書・参考資料等  |
| 前期           | 参考書・参考資料等  |
| 単位数          | 参考書・参考資料等  |
| 2            | 参考書・参考資料等  |
| 担当者          | 参考書・参考資料等  |
| 坂田雲溪         | 参考書・参考資料等  |
| 授業の到達目標及びテーマ | 学生に対する評価   |
| 社会心理学        | 出席と定期テスト   |
| 授業の概要        | その他  |
| 授業計画         | その他  |
| 学期           | 参考書・参考資料等  |
| 前期           | 参考書・参考資料等  |
| 単位数          | 参考書・参考資料等  |
| 2            | 参考書・参考資料等  |
| 担当者          | 参考書・参考資料等  |
| 坂田雲溪         | 参考書・参考資料等  |
| 授業の到達目標及びテーマ | 学生に対する評価   |
| 社会心理学        | 出席と定期テスト   |
| 授業の概要        | その他  |
| 授業計画         | その他  |
| 学期           | 参考書・参考資料等  |
| 前期           | 参考書・参考資料等  |
| 単位数          | 参考書・参考資料等  |
| 2            | 参考書・参考資料等  |
| 担当者          | 参考書・参考資料等  |
| 坂田雲溪         | 参考書・参考資料等  |
| 授業の到達目標及びテーマ | 学生に対する評価   |
| 社会心理学        | 出席と定期テスト   |
| 授業の概要        | その他  |
| 授業計画         | その他  |
| 学期           | 参考書・参考資料等  |
| 前期           | 参考書・参考資料等  |
| 単位数          | 参考書・参考資料等  |
| 2            | 参考書・参考資料等  |
| 担当者          | 参考書・参考資料等  |
| 坂田雲溪         | 参考書・参考資料等  |
| 授業の到達目標及びテーマ | 学生に対する評価   |
| 社会心理学        | 出席と定期テスト   |
| 授業の概要        | その他  |
| 授業計画         | その他  |
| 学期           | 参考書・参考資料等  |
| 前期           | 参考書・参考資料等  |
| 単位数          | 参考書・参考資料等  |
| 2            | 参考書・参考資料等  |
| 担当者          | 参考書・参考資料等  |
| 坂田雲溪         | 参考書・参考資料等  |
| 授業の到達目標及びテーマ | 学生に対する評価   |
| 社会心理学        | 出席と定期テスト   |
| 授業の概要        | その他  |
| 授業計画         | その他  |
| 学期           | 参考書・参考資料等  |
| 前期           | 参考書・参考資料等  |
| 単位数          | 参考書・参考資料等  |
| 2            | 参考書・参考資料等  |
| 担当者          | 参考書・参考資料等  |
| 坂田雲溪         | 参考書・参考資料等  |
| 授業の到達目標及びテーマ | 学生に対する評価   |
| 社会心理学        | 出席と定期テスト   |
| 授業の概要        | その他  |
| 授業計画         | その他  |
| 学期           | 参考書・参考資料等  |
| 前期           | 参考書・参考資料等  |
| 単位数          | 参考書・参考資料等  |
| 2            | 参考書・参考資料等  |
| 担当者          | 参考書・参考資料等  |
| 坂田雲溪         | 参考書・参考資料等  |
| 授業の到達目標及びテーマ | 学生に対する評価   |
| 社会心理学        | 出席と定期テスト   |
| 授業の概要        | その他  |
| 授業計画         | その他  |
| 学期           | 参考書・参考資料等  |
| 前期           | 参考書・参考資料等  |
| 単位数          | 参考書・参考資料等  |
| 2            | 参考書・参考資料等  |
| 担当者          | 参考書・参考資料等  |
| 坂田雲溪         | 参考書・参考資料等  |
| 授業の到達目標及びテーマ | 学生に対する評価   |
| 社会心理学        | 出席と定期テスト   |
| 授業の概要        | その他  |
| 授業計画         | その他  |
| 学期           | 参考書・参考資料等  |
| 前期           | 参考書・参考資料等  |
| 単位数          | 参考書・参考資料等  |
| 2            | 参考書・参考資料等  |
| 担当者          | 参考書・参考資料等  |
| 坂田雲溪         | 参考書・参考資料等  |
| 授業の到達目標及びテーマ | 学生に対する評価   |
| 社会心理学        | 出席と定期テスト   |
| 授業の概要        | その他  |
| 授業計画         | その他  |
| 学期           | 参考書・参考資料等  |
| 前期           | 参考書・参考資料等  |
| 単位数          | 参考書・参考資料等  |
| 2            | 参考書・参考資料等  |
| 担当者          | 参考書・参考資料等  |
| 坂田雲溪         | 参考書・参考資料等  |
| 授業の到達目標及びテーマ | 学生に対する評価   |
| 社会心理学        | 出席と定期テスト   |
| 授業の概要        | その他  |
| 授業計画         | その他  |
| 学期           | 参考書・参考資料等  |
| 前期           | 参考書・参考資料等  |
| 単位数          | 参考書・参考資料等  |
| 2            | 参考書・参考資料等  |
| 担当者          | 参考書・参考資料等  |
| 坂田雲溪         | 参考書・参考資料等  |
| 授業の到達目標及びテーマ | 学生に対する評価   |
| 社会心理学        | 出席と定期テスト   |
| 授業の概要        | その他  |
| 授業計画         | その他  |
| 学期           | 参考書・参考資料等  |
| 前期           | 参考書・参考資料等  |
| 単位数          | 参考書・参考資料等  |
| 2            | 参考書・参考資料等  |
| 担当者          | 参考書・参考資料等  |
| 坂田雲溪         | 参考書・参考資料等  |
| 授業の到達目標及びテーマ | 学生に対する評価   |
| 社会心理学        | 出席と定期テスト   |
| 授業の概要        | その他  |
| 授業計画         | その他  |
| 学期           | 参考書・参考資料等  |
| 前期           | 参考書・参考資料等  |
| 単位数          | 参考書・参考資料等  |
| 2            | 参考書・参考資料等  |
| 担当者          | 参考書・参考資料等  |
| 坂田雲溪         | 参考書・参考資料等  |
| 授業の到達目標及びテーマ | 学生に対する評価   |
| 社会心理学        | 出席と定期テスト   |
| 授業の概要        | その他  |
| 授業計画         | その他  |
| 学期           | 参考書・参考資料等  |
| 前期           | 参考書・参考資料等  |
| 単位数          | 参考書・参考資料等  |
| 2            | 参考書・参考資料等  |
| 担当者          | 参考書・参考資料等  |
| 坂田雲溪         | 参考書・参考資料等  |
| 授業の到達目標及びテーマ | 学生に対する評価   |
| 社会心理学        | 出席と定期テスト   |
| 授業の概要        | その他  |
| 授業計画         | その他  |
| 学期           | 参考書・参考資料等  |
| 前期           | 参考書・参考資料等  |
| 単位数          | 参考書・参考資料等  |
| 2            | 参考書・参考資料等  |
| 担当者          | 参考書・参考資料等  |
| 坂田雲溪         | 参考書・参考資料等  |
| 授業の到達目標及びテーマ | 学生に対する評価   |
| 社会心理学        | 出席と定期テスト   |
| 授業の概要        | その他  |
| 授業計画         | その他  |
| 学期           | 参考書・参考資料等  |
| 前期           | 参考書・参考資料等  |
| 単位数          | 参考書・参考資料等  |
| 2            | 参考書・参考資料等  |
| 担当者          | 参考書・参考資料等  |
| 坂田雲溪         | 参考書・参考資料等  |
| 授業の到達目標及びテーマ | 学生に対する評価   |
| 社会心理学        | 出席と定期テスト   |
| 授業の概要        | その他  |
| 授業計画         | その他  |
| 学期           | 参考書・参考資料等  |
| 前期           | 参考書・参考資料等  |
| 単位数          | 参考書・参考資料等  |
| 2            | 参考書・参考資料等  |
| 担当者          | 参考書・参考資料等  |
| 坂田雲溪         | 参考書・参考資料等  |
| 授業の到達目標及びテーマ | 学生に対する評価   |
| 社会心理学        | 出席と定期テスト   |
| 授業の概要        | その他  |
| 授業計画         | その他  |
| 学期           | 参考書・参考資料等  |
| 前期           | 参考書・参考資料等  |
| 単位数          | 参考書・参考資料等  |
| 2            | 参考書・参考資料等  |
| 担当者          | 参考書・参考資料等  |
| 坂田雲溪         | 参考書・参考資料等  |
| 授業の到達目標及びテーマ | 学生に対する評価   |
| 社会心理学        | 出席と定期テスト   |
| 授業の概要        | その他  |
| 授業計画         | その他  |
| 学期           | 参考書・参考資料等  |
| 前期           | 参考書・参考資料等  |
| 単位数          | 参考書・参考資料等  |
| 2            | 参考書・参考資料等  |
| 担当者          | 参考書・参考資料等  |
| 坂田雲溪         | 参考書・参考資料等  |
| 授業の到達目標及びテーマ | 学生に対する評価   |
| 社会心理学        | 出席と定期テスト   |
| 授業の概要        | その他  |
| 授業計画         | その他  |
| 学期           | 参考書・参考資料等  |
| 前期           | 参考書・参考資料等  |
| 単位数          | 参考書・参考資料等  |
| 2            | 参考書・参考資料等  |
| 担当者          | 参考書・参考資料等  |
| 坂田雲溪         | 参考書・参考資料等  |
| 授業の到達目標及びテーマ | 学生に対する評価   |
| 社会心理学        | 出席と定期テスト   |
| 授業の概要        | その他  |
| 授業計画         | その他  |
| 学期           | 参考書・参考資料等  |
| 前期           | 参考書・参考資料等  |
| 単位数          | 参考書・参考資料等  |
| 2            | 参考書・参考資料等  |
| 担当者          | 参考書・参考資料等  |
| 坂田雲溪         | 参考書・参考資料等  |
| 授業の到達目標及びテーマ | 学生に対する評価   |
| 社会心理学        | 出席と定期テスト   |
| 授業の概要        | その他  |
| 授業計画         | その他  |
| 学期           | 参考書・参考資料等  |
| 前期           | 参考書・参考資料等  |
| 単位数          | 参考書・参考資料等  |
| 2            | 参考書・参考資料等  |
| 担当者          | 参考書・参考資料等  |
| 坂田雲溪         | 参考書・参考資料等  |
| 授業の到達目標及びテーマ | 学生に対する評価   |
| 社会心理学        | 出席と定期テスト   |
| 授業の概要        | その他  |
| 授業計画         | その他  |
| 学期           | 参考書・参考資料等  |
| 前期           | 参考書・参考資料等  |
| 単位数          | 参考書・参考資料等  |
| 2            | 参考書・参考資料等  |
| 担当者          | 参考書・参考資料等  |
| 坂田雲溪         | 参考書・参考資料等  |
| 授業の到達目標及びテーマ | 学生に対する評価   |
| 社会心理学        | 出席と定期テスト   |
| 授業の概要        | その他  |
| 授業計画         | その他  |
| 学期           | 参考書・参考資料等  |
| 前期           | 参考書・参考資料等  |
| 単位数          | 参考書・参考資料等  |
| 2            | 参考書・参考資料等  |
| 担当者          | 参考書・参考資料等  |
| 坂田雲溪         | 参考書・参考資料等  |
| 授業の到達目標及びテーマ | 学生に対する評価   |
| 社会心理学        | 出席と定期テスト   |
| 授業の概要        | その他  |
| 授業計画         | その他  |
| 学期           | 参考書・参考資料等  |
| 前期           | 参考書・参考資料等  |
| 単位数          | 参考書・参考資料等  |
| 2            | 参考書・参考資料等  |
| 担当者          | 参考書・参考資料等  |
| 坂田雲溪         | 参考書・参考資料等  |
| 授業の到達目標及びテーマ | 学生に対する評価   |
| 社会心理学        | 出席と定期テスト   |
| 授業の概要        | その他  |
| 授業計画         | その他  |
| 学期           | 参考書・参考資料等  |
| 前期           | 参考書・参考資料等  |
| 単位数          | 参考書・参考資料等  |
| 2            | 参考書・参考資料等  |
| 担当者          | 参考書・参考資料等  |
| 坂田雲溪         | 参考書・参考資料等  |
| 授業の到達目標及びテーマ | 学生に対する評価   |
| 社会心理学        | 出席と定期テスト   |
| 授業の概要        | その他  |
| 授業計画         | その他  |
| 学期           | 参考書・参考資料等  |
| 前期           | 参考書・参考資料等  |
| 単位数          | 参考書・参考資料等  |
| 2            | 参考書・参考資料等  |
| 担当者          | 参考書・参考資料等  |
| 坂田雲溪         | 参考書・参考資料等  |
| 授業の到達目標及びテーマ | 学生に対する評価   |
| 社会心理学        | 出席と定期テスト   |
| 授業の概要        | その他  |
| 授業計画         | その他  |
| 学期           | 参考書・参考資料等  |
| 前期           | 参考書・参考資料等  |
| 単位数          | 参考書・参考資料等  |
| 2            | 参考書・参考資料等  |
| 担当者          | 参考書・参考資料等  |
| 坂田雲溪         | 参考書・参考資料等  |
| 授業の到達目標及びテーマ | 学生に対する評価   |
| 社会心理学        | 出席と定期テスト   |
| 授業の概要        | その他  |
| 授業計画         | その他  |
| 学期           | 参考書・参考資料等  |
| 前期           | 参考書・参考資料等  |
| 単位数          | 参考書・参考資料等  |
| 2            | 参考書・参考資料等  |
| 担当者          | 参考書・参考資料等  |
| 坂田雲溪         | 参考書・参考資料等  |
| 授業の到達目標及びテーマ | 学生に対する評価   |
| 社会心理学        | 出席と定期テスト   |
| 授業の概要        | その他  |
| 授業計画         | その他  |
| 学期           | 参考書・参考資料等  |
| 前期           | 参考書・参考資料等  |
| 単位数          | 参考書・参考資料等  |
| 2            | 参考書・参考資料等  |
| 担当者          | 参考書・参考資料等  |
| 坂田雲溪         | 参考書・参考資料等  |
| 授業の到達目標及びテーマ | 学生に対する評価   |
| 社会心理学        | 出席と定期テスト   |
| 授業の概要        | その他  |
| 授業計画         | その他  |
| 学期           | 参考書・参考資料等  |
| 前期           | 参考書・参考資料等  |
| 単位数          | 参考書・参考資料等  |
| 2            | 参考書・参考資料等  |
| 担当者          | 参考書・参考資料等  |
| 坂田雲溪         | 参考書・参考資料等  |
| 授業の到達目標及びテーマ | 学生に対する評価   |
| 社会心理学        | 出席と定期テスト   |
| 授業の概要        | その他  |
| 授業計画         | その他  |
| 学期           | 参考書・参考資料等  |
| 前期           | 参考書・参考資料等  |
| 単位数          | 参考書・参考資料等  |
| 2            | 参考書・参考資料等  |
| 担当者          | 参考書・参考資料等  |
| 坂田雲溪         | 参考書・参考資料等  |
| 授業の到達目標及びテーマ | 学生に対する評価   |
| 社会心理学        | 出席と定期テスト   |
| 授業の概要        | その他  |
| 授業計画         | その他  |
| 学期           | 参考書・参考資料等  |
| 前期           | 参考書・参考資料等  |
| 単位数          | 参考書・参考資料等  |
| 2            | 参考書・参考資料等  |
| 担当者          | 参考書・参考資料等  |
| 坂田雲溪         | 参考書・参考資料等  |
| 授業の到達目標及びテーマ | 学生に対する評価   |
| 社会心理学        | 出席と定期テスト   |
| 授業の概要        | その他  |
| 授業計画         | その他  |
| 学期           | 参考書・参考資料等  |
| 前期           | 参考書・参考資料等  |
| 単位数          | 参考書・参考資料等  |
| 2            | 参考書・参考資料等  |
| 担当者          | 参考書・参考資料等  |
| 坂田雲溪         | 参考書・参考資料等  |
| 授業の到達目標及びテーマ | 学生に対する評価   |
| 社会心理学        | 出席と定期テスト   |
| 授業の概要        | その他  |
| 授業計画         | その他  |

|  |  |
|--|--|
| 科目名<br><b>教育心理学</b>  | 授業の到達目標及びテーマ<br>・乳幼児期から青年期にかけての人間の心身の発達について科学的に理解できるように、人間の発達及び学習の過程について基本的な知見と発達に関する諸理論について学ぶ。<br>・障害を持つ子どもの発達と学習の過程について理解する。<br>・乳幼児期から青年期にかけての人間の心身の発達について科学的に理解できるように、人間の発達及び学習の過程について基本的な知見と発達に関する諸理論について学ぶ。<br>・障害を持つ子どもの発達と学習の過程について理解する。 |
| 授業の概要<br>人間の発達について具体的に理解できるように、子どもの発達及び学習の過程と、各発達段階の発達の特徴について論じる。また、教育心理学の各領域を概観し、教育現場に必要な心理学上の基礎理論を解説する。  |  |
| 授業計画<br>8月22日(水)～8月25日(土)の4日間。<br>1講時から4講時。ただし最終日の土曜日は3講時まで。<br>【講義の順序】<br>1. 教育心理学とは?<br>2. 発達の原理と発達の規律因<br>3. 発達の諸理論と発達課題<br>4. 学習理論①<br>5. 学習理論②<br>6. 記憶のメカニズム<br>7. 動機づけ<br>8. 学習指導の理論<br>9. 教育評価<br>10. 知能理論と知能の測定<br>11. パーソナリティの理解<br>12. 学級の心理学<br>13. 子どもの不適応と心理療法<br>14. 障害をもった子どもの発達<br>15. まとめと確認 |  |
| 学期<br><b>集中</b>  |  |
| 単位数<br><b>2</b>  |  |
| 担当者<br><b>末田啓二</b>   | テキスト<br>特になし<br><br>参考書・参考資料等<br>プリントを配布<br><br>学生に対する評価<br>出席と時折の小課題30%、定期試験70%<br><br>その他  |
| 科目名<br><b>社会社会保障論 I</b>  | 授業の到達目標及びテーマ<br>到達目標：社会保障は、社会福祉・医療・年金・雇用・子育て支援という広範囲な分野である。その分野の多くの分野は、国民の生活と直結している。利用者の生活支援を考えるとき総合的に生活関連の分野を学習することが重要である。<br>テーマ：社会保障の歴史と現状  |
| 授業の概要<br>わが国では、人口の高齢化がますます進んでいる。少子化も歴史がかかる。社会保障は高齢化社会で重要な位置をしめるにも関わらず国民的理解が必ずしもあるとはいえない。ここでは社会保障の基本的な事項について理解することを目的としたい。  |  |
| 授業計画<br>1. 社会保障の概念と範囲<br>2. ベルギーの社会保障計画<br>3. 社会保障の歴史<br>4. 社会保障の機能<br>5. 社会保障と労働力<br>6. 社会保障の方法<br>7. 社会保険の財政<br>8. 年金制度の遠隔<br>9. 年金制度の現状と課題<br>10. 医療保険制度の沿革<br>11. 医療保険制度の現状と課題<br>12. 介護保険制度の創設<br>13. 介護保険制度の意義<br>14. 介護保険制度の内容<br>15. 介護保険制度の課題   |  |
| 学期<br><b>前期</b>  |  |
| 単位数<br><b>2</b>  |  |
| 担当者<br><b>山口幸照</b>   | テキスト<br>社会福祉士養成講座「社会保障論」中央法規出版<br><br>参考書・参考資料等<br>「社会福祉士のための基礎知識I～III」中央法規出版<br><br>学生に対する評価<br>出席率・レポート・筆記試験を総合して評価する。<br><br>その他  |

|  |   |
|--|---|
| 科目名<br><b>社会社会保障論 II</b>   | 授業の到達目標及びテーマ<br>到達目標：社会保障は、社会福祉・医療・年金・雇用・子育て支援という広範囲な分野である。その分野の多くの分野は、国民の生活と直結している。利用者の生活支援を考えるとき総合的に生活関連の分野を学習することが重要である。<br>テーマ：社会保障の歴史と現状 |
| 授業の概要<br>わが国では、人口の高齢化がますます進んでいる。少子化も歴史がかかる。社会保障は高齢化社会で重要な位置をしめるにも関わらず国民的理解が必ずしもあるとはいえない。ここでは社会保障の基本的な事項について理解することを目的としたい。  |   |
| 授業計画<br>1. 労働保険制度の沿革<br>2. 雇用保険制度の沿革、現状<br>3. 労災保険制度の現状と課題<br>4. 生活保障と民間保険<br>5. 生活リスクと民間保険の役割<br>6. 社会保険の管理運営<br>7. 権利救済制度<br>8. 社会保障費の構造と経済社会の変動<br>9. 社会保障改革と将来ビジョン<br>10. 社会保障費の国民負担<br>11. 諸外国の社会保障・フランス<br>12. 諸外国の社会保障・ドイツ<br>13. 諸外国の社会保障・スウェーデン<br>14. 諸外国の社会保障・イギリス<br>15. 諸外国の社会保障・アメリカ |   |
| 学期<br><b>後期</b>  |   |
| 単位数<br><b>2</b>  |   |
| 担当者<br><b>山口幸照</b>   | テキスト<br>社会福祉士養成講座「社会保障論」中央法規出版<br><br>参考書・参考資料等<br>「社会福祉士のための基礎知識I～III」中央法規出版<br><br>学生に対する評価<br>出席率・レポート・筆記試験を総合して評価する。<br><br>その他           |
| 科目名<br><b>社会社会保障論 III</b>  | 授業の到達目標及びテーマ<br>到達目標：<br>テーマ：   |
| 授業の概要  |   |
| 授業計画   |   |
| 学期   |   |
| 単位数  |   |
| 担当者  | テキスト  |
|  | 参考書・参考資料等   |
|  | 学生に対する評価  |
|  | その他   |

|           |  |
|-----------|--|
| 科目名       | 授業の到達目標及びテーマ   |
| 教職入門      | <p>到達目標：教員の職務内容について学生が十分理解し、安易な職務選択をすることがないことを到達目標とする。</p> <p>テーマ：教員の職務と使命</p>   |
| 授業の概要     | 本講義は、教員の職務について解説し、教職への導入の役割を果たす科目である。<br>表面化しない教員の職務の現状について、現場の事例を多く取り入れ解説する。  |
| 授業計画      | <ol style="list-style-type: none"> <li>講義の目的と概要の解説を行う。</li> <li>教職の意義と教員の役割について解説する。</li> <li>教員養成・教職課程の変遷について解説する。</li> <li>教員の種類と階級及び教員の役割と社会的使命について考察し解説する。</li> <li>教員の職務と学習指導要領の関係について説明し考察する。</li> <li>教員の職務と校務分掌の関係について解説する。</li> <li>生徒指導と教員の職務について、事例を中心に解説する。小試験。</li> <li>進路指導・教育相談と教員について、事例を中心に解説する。</li> <li>学級経営と教員について解説し、論じる。</li> <li>教員の研修について、職務研修を中心に現状を解説し考察する。</li> <li>教員の服務と身分保障について説明する。</li> <li>サービスの基本基準について説明する。</li> <li>職務上の服務と身分上の服務について説明する。</li> <li>教員採用の現状と進路選択について考察する。</li> <li>総括講義</li> </ol> |
| 学期        | 前  |
| 前期        | 期  |
| 単位数       | 2  |
| 担当者       | 伊藤一雄   |
| テキスト      | 伊藤一雄著「教職基礎論」サンライズ出版 2010.4発行   |
| 参考書・参考資料等 | 教職問題研究会著「教師論」(改訂版) 2007.4 発行   |
| 学生に対する評価  | 定期試験60%、小試験20%、授業参加（単なる出席でなく質問や発表内容なども含む）20%で評価する。   |
| その他       |  |

|           |  |
|-----------|--|
| 科目名       | 授業の到達目標及びテーマ   |
| 教育原論      | <p>到達目標：将来教員を志望する学生を対象に、教育の機能と社会について理解することを目標とする。</p> <p>テーマ：教育の理念並びに教育の関する歴史及び思想</p>  |
| 授業の概要     | 教育という営みは人間形成という個人的な面と、文化を伝達し社会に役立てるという社会的な面の二面性がある。本講義は教育の目的や機能について解説し、教育とはどのような営みなのかを考察する。また、現代の日本社会の学校が抱えている教育の病理について、構造的な側面から解説する。  |
| 授業計画      | <ol style="list-style-type: none"> <li>人間形成と教育及び子どもの発達と教育<br/>第1回：教育の目的と国家<br/>第2回：子どもの発達と教育<br/>第3回：子どもの生活と教育</li> <li>近代の教育思想とわが国の教育の変遷について概説する。<br/>第4回：ヨーロッパにおける教育思想の変遷を概説する。<br/>第5回：アジアにおける教育思想の変遷を概説する。<br/>第6回：わが国の教育思想の変遷を概説する。<br/>第7回：第1回～第6回の講義内容についてのまとめ。小テストを行う。</li> <li>学校教育<br/>第8回：義務教育について解説する。<br/>第9回：後期中等教育について解説する。<br/>第10回：高校の多様化と教育課程について解説する。<br/>第11回：高校教育から義務教育と大学教育を考える。<br/>第12回：障害者教育について解説する。</li> <li>教育と社会<br/>第13回：国際化と教育との関わりについて論じる。<br/>第14回：学校教育の大衆化について論じる。<br/>第15回：第8回～14回の講義内容についてのまとめ、小テストを行う。</li> </ol> |
| 学期        | 前  |
| 前期        | 期  |
| 単位数       | 2  |
| 担当者       | 山脇雅夫   |
| テキスト      | 田嶋一著『やさしい教育原理』有斐閣  |
| 参考書・参考資料等 | 伊藤一雄著『教職への道標』／サンライズ出版  |
| 学生に対する評価  | 定期試験(30%)、小試験(70%) + 授業への参加を加味する。  |
| その他       |  |

|           |  |
|-----------|--|
| 科目名       | 授業の到達目標及びテーマ   |
| 教育社会学     | <p>到達目標：・社会調査で利用される統計の「読み方」に慣れる。<br/>・相手にわかりやすく説明する力をつける。</p> <p>テーマ：・教育と強制のあいだ</p>  |
| 授業の概要     | 教育には児童・生徒の自主性を尊重しつつ、一定の方向に持っているなければならないという両義的な性質がある。甘くするだけでも厳しくするだけでも効果は期待しにくい。こうした教育のもつ両義性について少年犯罪を事例に学んでいく。  |
| 授業計画      | <ol style="list-style-type: none"> <li>ガイダンス</li> <li>報告レジュメのつくりかた(1)</li> <li>報告レジュメのつくりかた(2)</li> <li>報告レジュメのつくりかた(3)</li> <li>白書統計から眺めた少年犯罪(1)</li> <li>白書統計から眺めた少年犯罪(2)</li> <li>人間関係に縛られた少年たち(1)</li> <li>人間関係に縛られた少年たち(2)</li> <li>成熟した社会のパラドクス(1)</li> <li>成熟した社会のパラドクス(2)</li> <li>保護の対象から責任の対象へ(1)</li> <li>保護の対象から責任の対象へ(2)</li> <li>社会の病理から個人の病理へ(1)</li> <li>社会の病理から個人の病理へ(2)</li> <li>不宽容な社会のパラドクス</li> </ol>   |
| 学期        | 後  |
| 後期        | 期  |
| 単位数       | 2  |
| 担当者       | 藤吉圭二   |
| テキスト      | 土井隆義『人間失格?』日本図書センター、2000円程度。<br>※生協・書店などで購入しておくこと。<br>※ガイダンス時に用意していない場合は原則として受講を認めない。  |
| 参考書・参考資料等 | テキスト巻末のブックガイドを活用すること。  |
| 学生に対する評価  | ・報告レジュメのできばえ…50点<br>・定期試験…50点<br>※詳細はガイダンスで説明する  |
| その他       | ・テキストを購入しておくこと（試験でも使用する）。<br>・初回に配布するガイダンスプリントを必ず入手しておくこと。<br>・受講希望者が多い場合には選抜することがある。  |
| 科目名       | 授業の到達目標及びテーマ   |
| 教育課程論     | <p>到達目標：教育課程とはなにかを理解し、中学校及び高校の学習指導要領の意図するものはなにか、またそれはどのように構成されているのかをどれだけ把握できたかを到達目標とする。</p> <p>テーマ：学習指導要領と学校教育課程の間を探る。</p>   |
| 授業の概要     | 教育課程は学校の教育実践の基盤となるものである。教育課程の意図する点について本講義を通じて新学習指導要領を中心に解説し、併せて、その変遷について述べる。<br>さらに、学校教育と学習指導要領の間にある「隠れたカリキュラム」の実践的意義について考察する。   |
| 授業計画      | <ol style="list-style-type: none"> <li>教育課程とは何か及び教育課程の目標とするところについて解説する。</li> <li>教育課程の内容構成について解説する。</li> <li>学校の教育活動と教育課程の編成について解説する。</li> <li>教育課程と教科の構成について解説する。</li> <li>教育課程の評価方法について解説する。</li> <li>学習指導要領と教育課程の変遷(1)発足時から1958年改訂まで</li> <li>学習指導要領と教育課程の変遷(2)1958年改訂から1977年改訂まで</li> <li>学習指導要領と教育課程の変遷(3)1977年改訂から1998年改訂まで</li> <li>学習指導要領と教育課程の変遷(4)1998年改訂から現在まで</li> <li>新学習指導要領の意図するもの</li> <li>学習指導要領の法的拘束性について考察する。</li> <li>教育課程と隠れたカリキュラムについて解説し考察する(1)</li> <li>教育課程と隠れたカリキュラムについて解説し考察する(2)</li> <li>中等教育カリキュラムの国際比較 日・米・欧(ドイツ・フランス)の比較</li> <li>総括講義 教育課程の編成と学校の教育活動の現状</li> </ol> |
| 学期        | 後  |
| 後期        | 期  |
| 単位数       | 2  |
| 担当者       | 伊藤一雄   |
| テキスト      | 平成21年度版 学習指導要領(中学校編)及び(高等学校編)<br>文部科学省   |
| 参考書・参考資料等 | 伊藤一雄著「教職への道標」サンライズ出版 2008.10発行<br>伊藤一雄著「教育課程論」晃陽書房 2010.4 発行   |
| 学生に対する評価  | 定期試験50%、小試験30%、授業参加（単なる出席でなく質問や発表内容を含む）20%   |
| その他       |  |

|                              |  |                              |  |
|------------------------------|--|------------------------------|--|
| <b>科目名</b><br><b>宗教科教育法Ⅰ</b> | <b>授業の到達目標及びテーマ</b><br>到達目標：宗教教育の意義を学び、宗教教育のあり方について考えを深める。<br>テーマ：宗教教育の理論と実際   | <b>科目名</b><br><b>宗教科教育法Ⅱ</b> | <b>授業の到達目標及びテーマ</b><br>到達目標：宗教教育科の授業方法や実際にについて学ぶ。<br>テーマ：模擬授業を通してみた宗教教育の実際   |
|                              | <b>授業の概要</b><br>学校教育における宗教教育に必要な理論と実際にについて学習する。宗教教育の意義について学ぶとともに、宗教科教育法を通して戦前と戦後における宗教教育の実態を探り、宗教教育のあり方について考える。そのうえで、実際の宗教教育の進め方について学習する。  |                              | <b>授業の概要</b><br>受講者全員に数回ずつ模擬授業を課し、それぞれの模擬授業について全員で総括しながら、高校生を対象とした宗教教育の授業内容や方法などについて学習する。  |
|                              | <b>授業計画</b><br>1. シラバスの説明、講義の進め方等<br>2. 宗教教育とは（1）<br>3. 宗教教育とは（2）<br>4. 宗教教育とは（3）<br>5. 宗教科教育法について（1）<br>6. 宗教科教育法について（2）<br>7. 宗教科教育法について（3）<br>8. 宗教教育の歴史（1）<br>9. 宗教教育の歴史（2）<br>10. 宗教教育の歴史（3）<br>11. 宗教教育の歴史（4）<br>12. 学習指導案の作成（1）<br>13. 学習指導案の作成（2）<br>14. 学習指導案の作成（3）<br>15. 試験 |                              | <b>授業計画</b><br>1. シラバスの説明、講義の進め方等、およびビデオ鑑賞<br>2. 山内の歴史探訪と案内<br>3. 模擬授業 テーマ「祖師の生涯」1（釈尊伝）<br>4. 模擬授業 テーマ「祖師の生涯」2（釈尊伝）<br>5. 模擬授業 テーマ「祖師の生涯」3（弘法大師伝）<br>6. 模擬授業 テーマ「祖師の生涯」4（弘法大師伝）<br>7. 模擬授業 テーマ「祖師の教え」1（仏教の教え）<br>8. 模擬授業 テーマ「祖師の教え」2（仏教の教え）<br>9. 模擬授業 テーマ「祖師の教え」3（真言宗の教え）<br>10. 模擬授業 テーマ「祖師の教え」4（真言宗の教え）<br>11. 模擬授業 テーマ「教団の歴史」1（仏教の歴史）<br>12. 模擬授業 テーマ「教団の歴史」2（仏教の歴史）<br>13. 模擬授業 テーマ「教団の歴史」3（真言宗の歴史）<br>14. 模擬授業 テーマ「教団の歴史」4（真言宗の歴史）<br>15. 模擬授業の反省と総括 |
|                              | <b>学期</b><br><b>前期</b>   |                              | <b>学期</b><br><b>後期</b>   |
|                              | <b>単位数</b><br><b>2</b>   |                              | <b>単位数</b><br><b>2</b>   |
|                              | <b>担当者</b><br><b>乾</b>   |                              | <b>担当者</b><br><b>岩波書店</b>  |
|                              | <b>参考書・参考資料等</b><br>斎藤昭俊著『宗教科教育法』国書刊行会<br>その他、プリント配布   |                              | <b>参考書・参考資料等</b><br>中村元・田辺和子共著『ブッダ物語』(岩波ジュニア新書)<br>岩波書店  |
|                              | <b>参考書・参考資料等</b><br>教育実習を考える会編『実践「教育実習」学習指導案づくりと授業実習・記録の要点』蒼丘書林  |                              | <b>参考書・参考資料等</b><br>松長有慶著『空海・心の眼をひらく－弘法大師の生涯と密教－』大法輪閣  |
|                              | <b>参考書・参考資料等</b><br>小口偉一編『宗教学辞典』東京大学出版社、等  |                              | <b>参考書・参考資料等</b><br>富田向真著『青少年のための仏教読本』高野山真言宗布教研究所  |
|                              | <b>学生に対する評価</b><br>試験 60%、レポート 40%   |                              | <b>学生に対する評価</b><br>模擬授業(学習指導案と教材研究を含む)60%、レポート 40%   |
|                              | <b>その他</b><br>宗教科教育法は他の一般教科とは少し性格が異なる。その点を受講者は十分に留意し、主体的に学習してほしい。そのためには、とくに宗教科の教師になるということの意味をよく考えることが必要である。  |                              | <b>その他</b><br>宗教科の教師になるということの意味をよく考え、仏教・密教に関する基礎知識を普段からしっかりと養い、創意工夫して、模擬授業に望むこと。   |

|                              |   |            |                                      |
|------------------------------|---|------------|--------------------------------------|
| <b>科目名</b><br><b>宗教科教育法Ⅲ</b> | <b>授業の到達目標及びテーマ</b><br>到達目標：日本国の中等教育において、いかなる宗教教育のあり方が望まれ又求められているのか、私学における義務教育の枠組みの中で自らの答えを見出すこと。<br>テーマ：<br>(1) 教育基本法、関連法令についての学習<br>(2) 現代の科学用語と仏教用語それぞれの意味内容の理解<br>(3) 受講生各自にとっての「私の伝えたいこと」の発表   | <b>科目名</b> | <b>授業の到達目標及びテーマ</b><br>到達目標：<br>テーマ： |
|                              | <b>授業の概要</b><br>日本国の中等教育において、いかなる宗教教育のあり方が、現代の日本社会において、今、望まれ又求められているのか、私学における義務教育の枠組みの中で共に考えてみたい。   |            | <b>授業の概要</b>                         |
|                              | <b>授業計画</b><br>1. 導入<br>2. 関連法令・文部科学省中央審議会報告から学ぶ（文部科学省のHPから検出できる資料を基に）<br>3. 「教育基本法」（平成18年12月公布・施行）、「教育振興基本計画」（平成20年7月1日閣議決定）<br>を学ぶ<br>4. 宗教教育を担う教育者のあり方と教育指針について考える（「公民」教科書から学ぶ）<br>5. (同上)<br>6. 仏教の観点から見る、生命倫理分野・脳神経倫理分野における脳／心についての諸論点<br>7. (同上)<br>8. 仏教の観点から見る、「無縁死」や「孤族」なる造語が生まれた現代社会における諸論点<br>9. (同上)<br>10. 受講生による課題発表：宗教の時間で中高生に向けて「私の伝えたいこと」（一文で）<br>11. (同上)<br>12. 受講生による課題発表：宗教の時間で中高生に「私の伝えたいこと」（キーワード一文字で）<br>13. (同上)<br>14. まとめ<br>15. 学期末試験 |            | <b>授業計画</b>                          |
|                              | <b>テキスト</b><br>テキストはない。   |            | <b>学年</b>                            |
|                              | <b>参考書・参考資料等</b><br>授業の中で、適宜、紹介するが、『図解 宗教史』（成美堂出版 2010年）などを参考書として使用する。  |            | <b>単位数</b>                           |
|                              | <b>学生に対する評価</b><br>学年末の論述式試験（60%）と、授業の中での課題発表・討論内容（40%）によって評価する。  |            | <b>テキスト</b>                          |
|                              | <b>その他</b><br>授業に欠席する場合は、予め連絡を入れることを義務付ける。教諭・教員を目指す者にとって、守るべき最低限のマナーの一つと考えるからである。したがって、無断欠席が（2回を超えて）続いた場合、その時点で単位取得はなくなったものと考えて頂きたい。  |            | <b>参考書・参考資料等</b>                     |
|                              |   |            | <b>担当者</b>                           |
|                              |   |            | <b>学生に対する評価</b>                      |
|                              |   |            | <b>その他</b>                           |

|              |   |
|--------------|---|
| 科目名          | 授業の到達目標及びテーマ  |
| 国語科教育法Ⅰ      | <p>到達目標：国語への関心を高め、表現力を伸張し、日本文化と伝統についての理解を深める。</p> <p>テーマ：学習指導要領を通して、国語科教育の目的・目標を理解させる。<br/>教材研究の方法を各単元ごとに具体的に指導する。<br/>学習指導案の作成の意義・手順・などを具体的に指導する。</p>  |
| 授業の概要        | 中学校と高等学校の学習指導要領（国語科）を対比しながら、国語科の目標ならびに内容を理解する。<br>高等学校の国語の教科書を通して、具体的に教材研究のありかたを学ぶ。また、授業のために不可欠な指導案の作成にかかる諸問題を学ぶ。   |
| 授業計画         | <p>第1回：シラバスの説明とその補足（とくに講義概要と成績評価の部分）。<br/>国語科教育の目的・目標（中学校・高等学校）</p> <p>第2回：中学校の学習指導要領（国語）の「内容」を読み、その意味を正しく理解する。</p> <p>第3回：高等学校の学習指導要領（国語）の「内容」を読み、その意味を正しく理解する。</p> <p>第4回：高等学校における「古典」の授業のあり方について、現場の意見も参考にしながら、その方法を具体的に考える。</p> <p>第5回：学習指導案とは何か。その意義と目的について</p> <p>第6回：教材研究の方法と指導案の作成の方法（その1）<br/>「国語総合」（現代文編）評論「うまれ変わる言葉」について</p> <p>第7回：教材研究の方法と指導案の作成の方法（その2）<br/>「国語総合」（現代文編）小説「富嶽百景」について</p> <p>第8回：教材研究の方法と指導案の作成の方法（その3）<br/>「国語総合」（現代文編）詩歌「小景園情」について</p> <p>第9回：教材研究の方法と指導案の作成の方法（その4）<br/>「国語総合」（古典編）説話「檢非違使忠明」について</p> <p>第10回：教材研究の方法と指導案の作成の方法（その5）<br/>「国語総合」（古典編）隨筆「徒然草」の「城陸奥守泰盛は」について</p> <p>第11回：教材研究の方法と指導案の作成の方法（その6）<br/>「国語総合」（古典編）物語「竹取物語」「なよたけのかぐや姫」について</p> <p>第12回：教材研究の方法と指導案の作成の方法（その7）<br/>「国語総合」（古典編一漢文）「格言と故事」</p> <p>第13回：上記の学習を通して学んだ教材研究と学習指導案についての意見交換（総括）</p> <p>第14回：教員による模擬授業（50分）とその授業に対する受講生の評価（教材研究と学習指導案を中心に）</p> <p>第15回：総括講義</p> |
| 学期           | 授業の概要   |
| 前期           | 授業計画  |
| 単位数          | <p>第1回：ガイダンス（模擬授業の意義、指導案の意義の確認）</p> <p>第2回：模擬授業（1）現代文〈評論〉「希望としてのクレオール」</p> <p>第3回：模擬授業（2）古文〈説話〉「絵仏師良秀」</p> <p>第4回：模擬授業（3）国語表現「君たちに伝えたいこと」</p> <p>第5回：模擬授業（4）古典文法（動詞の活用）<br/>—「生く」は何段活用か—</p> <p>第6回：模擬授業（5）現代文〈小説〉『羅生門』</p> <p>第7回：高校現場を体感する（その1）現代文</p> <p>第8回：高校現場を体感する（その2）古文</p> <p>第9回：第六回と第七回の授業参観の反省会</p> <p>第10回：模擬授業（6）漢文〈故事〉「矛盾」</p> <p>第11回：模擬授業（7）古文〈日記〉「土佐日記」</p> <p>第12回：模擬授業（8）国語表現「報告文」「手紙」を書いてみる</p> <p>第13回：模擬授業（9）現代文〈詩歌〉現代詩「汚れちまつた悲しみに」</p> <p>第14回：模擬授業（10）古文〈和歌〉『新古今集』－三夕の歌の理解－</p> <p>第15回：総括 教材研究のありかたとあるべき指導案の確認</p>   |
| 2            | 授業計画  |
| 担当者          | テキスト<br>『国語総合』（東京書籍）現代文編・古典編  |
| 下西忠          | 参考書・参考資料等<br>受講者の模擬授業に際し、適宜資料を配付  |
| 授業の到達目標及びテーマ | 学生に対する評価<br>平常点40%、模擬授業と指導案60%  |
| 国語科教育法Ⅱ      | その他   |

|              |   |
|--------------|---|
| 科目名          | 授業の到達目標及びテーマ  |
| 国語科教育法Ⅱ      | <p>到達目標：実際の模擬授業を通して、多くの実践体験をつむとともに、教師に必要なさまざまな資質を養う。また各単元における指導案の書き方も研究することとする。</p> <p>テーマ：</p>   |
| 授業の概要        | 毎時間一名による模擬授業（50分）とそれに対する他の受講生の意見・批評。また教員の意見・指導（40分）。忌憚のない積極的な意見を出し合うことにより、授業の内容・教材研究・指導案の書き方などを学ぶことになる。また併設校で実際に教育実習をおこなっている学生の授業を参観することにより、高校の現場を知ることも学びたい。  |
| 授業計画         | 授業計画  |
| 学期           | <p>第1回：ガイダンス（模擬授業の意義、指導案の意義の確認）</p> <p>第2回：模擬授業（1）現代文〈評論〉「希望としてのクレオール」</p> <p>第3回：模擬授業（2）古文〈説話〉「絵仏師良秀」</p> <p>第4回：模擬授業（3）国語表現「君たちに伝えたいこと」</p> <p>第5回：模擬授業（4）古典文法（動詞の活用）<br/>—「生く」は何段活用か—</p> <p>第6回：模擬授業（5）現代文〈小説〉『羅生門』</p> <p>第7回：高校現場を体感する（その1）現代文</p> <p>第8回：高校現場を体感する（その2）古文</p> <p>第9回：第六回と第七回の授業参観の反省会</p> <p>第10回：模擬授業（6）漢文〈故事〉「矛盾」</p> <p>第11回：模擬授業（7）古文〈日記〉「土佐日記」</p> <p>第12回：模擬授業（8）国語表現「報告文」「手紙」を書いてみる</p> <p>第13回：模擬授業（9）現代文〈詩歌〉現代詩「汚れちまつた悲しみに」</p> <p>第14回：模擬授業（10）古文〈和歌〉『新古今集』－三夕の歌の理解－</p> <p>第15回：総括 教材研究のありかたとあるべき指導案の確認</p> |
| 前            | テキスト<br>『国語総合』（東京書籍）現代文編・古典編  |
| 期            | 参考書・参考資料等<br>受講者の模擬授業に際し、適宜資料を配付  |
| 単位数          | 学生に対する評価<br>平常点40%、模擬授業と指導案60%  |
| 2            | その他   |
| 担当者          | テキスト<br>『国語総合』（東京書籍）現代文編・古典編  |
| 下西忠          | 参考書・参考資料等<br>受講者の模擬授業に際し、適宜資料を配付  |
| 授業の到達目標及びテーマ | 学生に対する評価<br>平常点40%、模擬授業と指導案60%  |
| 国語科教育法Ⅲ      | その他   |

|         |   |
|---------|---|
| 科目名     | 授業の到達目標及びテーマ  |
| 国語科教育法Ⅲ | <p>国語科教育法Ⅰでは学習指導要領の解説、Ⅱでは教案作成及び模擬授業に焦点を当て、講義したが、本講義では古文指導に焦点を当て、教材研究の進め方、古文授業の展開法を理解させることを目標とする。教材研究の深さが指導のポイントであることを古文指導を通じて実感させ、どれだけ教材研究が深められたか、作成した学習指導案と小模擬授業を通じて判断する。</p>  |
| 授業の概要   | 古文を苦手とする中学生、高校生に対してどのように興味ある授業展開ができるか、担当者の現場経験を入れて解説する。古文の力を高める教材研究、古文法の力を高める教材研究の方法、古文を理解するため、日本の伝統文化行事、和歌、俳句の修辞等の解説を行う。   |
| 授業計画    | <p>第1回：ガイダンス（授業内容の趣旨説明）と古文学習の概説</p> <p>第2回：古文指導の基礎1（古文と現代の私たちの生活について解説する）</p> <p>第3回：古文指導の基礎2（古文指導と現代文指導との違いについて解説する）</p> <p>第4回：古文の教材研究法1（教材研究ノートの作成1）</p> <p>第5回：古文の教材研究法2（教材研究ノートの作成2）</p> <p>第6回：古文1（用言・活用の種類と活用形）の指導法</p> <p>第7回：古文2（助動詞の文法的意味）の指導法1</p> <p>第8回：古文3（助動詞の文法的意味）の指導法2</p> <p>第9回：古文4（助詞の文法的意味）の指導法3</p> <p>第10回：古文5 古文指導の教案作成（平家物語を教材化する）</p> <p>第11回：古文6 古文指導の小模擬授業（4名程度）</p> <p>第12回：古文7（和歌及び俳句の修辞と区切れ・本歌取り・季語）をどう指導するか。</p> <p>第13回：古文8 日本書紀と季節行事について解説する。</p> <p>第14回：古文9 担当者によるモデル授業と小試験</p> <p>第15回：総括授業</p>         |
| 学期      | 授業の概要   |
| 前       | 授業計画  |
| 期       | <p>第1回：ガイダンス（模擬授業の意義、指導案の意義の確認）</p> <p>第2回：模擬授業（1）現代文〈評論〉「希望としてのクレオール」</p> <p>第3回：模擬授業（2）古文〈説話〉「絵仏師良秀」</p> <p>第4回：模擬授業（3）国語表現「君たちに伝えたいこと」</p> <p>第5回：模擬授業（4）古典文法（動詞の活用）<br/>—「生く」は何段活用か—</p> <p>第6回：模擬授業（5）現代文〈小説〉『羅生門』</p> <p>第7回：高校現場を体感する（その1）現代文</p> <p>第8回：高校現場を体感する（その2）古文</p> <p>第9回：第六回と第七回の授業参観の反省会</p> <p>第10回：模擬授業（6）漢文〈故事〉「矛盾」</p> <p>第11回：模擬授業（7）古文〈日記〉「土佐日記」</p> <p>第12回：模擬授業（8）国語表現「報告文」「手紙」を書いてみる</p> <p>第13回：模擬授業（9）現代文〈詩歌〉現代詩「汚れちまつた悲しみに」</p> <p>第14回：模擬授業（10）古文〈和歌〉『新古今集』－三夕の歌の理解－</p> <p>第15回：総括 教材研究のありかたとあるべき指導案の確認</p> |
| 単位数     | テキスト<br>『国語総合』（東京書籍）現代文編・古典編  |
| 2       | 参考書・参考資料等<br>受講者の模擬授業に際し、適宜資料を配付  |
| 担当者     | 学生に対する評価<br>平常点20%、教材研究ノートの作成30%、教案作成20%、小模擬試験または小試験30%。  |
| 下西忠     | その他   |

|              |   |
|--------------|---|
| 科目名          | 授業の到達目標及びテーマ  |
| 国語科教育法Ⅳ      | <p>到達目標：実際の模擬授業を通して、多くの実践体験をつむとともに、教師に必要なさまざまな資質を養う。また各単元における指導案の書き方も研究することとする。</p> <p>テーマ：</p>   |
| 授業の概要        | 毎時間一名による模擬授業（50分）とそれに対する他の受講生の意見・批評。また教員の意見・指導（40分）。忌憚のない積極的な意見を出し合うことにより、授業の内容・教材研究・指導案の書き方などを学ぶことになる。また併設校で実際に教育実習をおこなっている学生の授業を参観することにより、高校の現場を知ることも学びたい。  |
| 授業計画         | 授業計画  |
| 学期           | <p>第1回：ガイダンス（模擬授業の意義、指導案の意義の確認）</p> <p>第2回：模擬授業（1）現代文〈評論〉「希望としてのクレオール」</p> <p>第3回：模擬授業（2）古文〈説話〉「絵仏師良秀」</p> <p>第4回：模擬授業（3）国語表現「君たちに伝えたいこと」</p> <p>第5回：模擬授業（4）古典文法（動詞の活用）<br/>—「生く」は何段活用か—</p> <p>第6回：模擬授業（5）現代文〈小説〉『羅生門』</p> <p>第7回：高校現場を体感する（その1）現代文</p> <p>第8回：高校現場を体感する（その2）古文</p> <p>第9回：第六回と第七回の授業参観の反省会</p> <p>第10回：模擬授業（6）漢文〈故事〉「矛盾」</p> <p>第11回：模擬授業（7）古文〈日記〉「土佐日記」</p> <p>第12回：模擬授業（8）国語表現「報告文」「手紙」を書いてみる</p> <p>第13回：模擬授業（9）現代文〈詩歌〉現代詩「汚れちまつた悲しみに」</p> <p>第14回：模擬授業（10）古文〈和歌〉『新古今集』－三夕の歌の理解－</p> <p>第15回：総括 教材研究のありかたとあるべき指導案の確認</p> |
| 前            | テキスト<br>『国語総合』（東京書籍）現代文編・古典編  |
| 期            | 参考書・参考資料等<br>受講者の模擬授業に際し、適宜資料を配付  |
| 単位数          | 学生に対する評価<br>平常点40%、模擬授業と指導案60%  |
| 2            | 学生に対する評価<br>平常点40%、模擬授業と指導案60%  |
| 担当者          | テキスト<br>『国語総合』（東京書籍）現代文編・古典編  |
| 下西忠          | 参考書・参考資料等<br>受講者の模擬授業に際し、適宜資料を配付  |
| 授業の到達目標及びテーマ | 学生に対する評価<br>平常点40%、模擬授業と指導案60%  |
| 国語科教育法Ⅲ      | その他   |

|                       |  |                         |  |
|-----------------------|--|-------------------------|--|
| 科目名<br><b>教育方法論</b>   | <b>授業の到達目標及びテーマ</b><br>到達目標：近代から現代に至る教育方法に関する思想や技法を知り、今日的な教育方法の問題点や課題を考察することができる。<br>テーマ：教育方法の思想と具体的な教授法の研究  | 科目名<br><b>情報技術論</b>     | <b>授業の到達目標及びテーマ</b><br>到達目標：情報及び情報技術を活用できる技術と技能を活かして、学校教育において情報及び情報機器が果たしている役割を認識し、あわせて中学校及び高校の学習指導要領が意図する情報教育を理解することを到達目標とする。<br>テーマ：情報機器を教育に活かす  |
|                       | <b>授業の概要</b><br>17世紀から20世紀に至る主要な教育思想の歴史的展開とその教授理論を概観し、現代の授業論に関する基礎と実践モデルを考察する。   |                         | <b>授業の概要</b><br>情報及び情報技術を学校教育で活かすための教材作成を行う。本講義を通じて情報及び情報機器の正しい取り扱いに習熟し、生徒の指導ができるようにする。作成した教材を用いて各自に模擬授業を行わせ、情報及び情報機器の有効な利用法を学ぶ。   |
|                       | <b>授業計画</b><br>1. コメニウスの教育思想－近代教育の創始者－<br>2. ベスタロッチの教育思想（1）－人類教育の父－<br>3. ベスタロッチの教育思想（2）－基礎陶冶と人間形成論－<br>4. ヘルバートの教育思想（1）－科学的教育学の創始者－<br>5. ヘルバートの教育思想（2）－教授段階説の構造－<br>6. 個別化教授法の理論と展開（1）－デューアイの教育論－<br>7. 個別化教授法の理論と展開（2）－個別化教授理論－<br>8. 個別化教授法の理論と展開（3）－個別化教授プラン－<br>9. 生活綴り方の教育方法の理論と実践<br>10. 問題解決学習と系統学習の理論<br>11. 現代授業研究の現状－視聴覚教育も含む－<br>12. 今日的授業改革の論点<br>13. 完全習得学習の理論と実践<br>14. 我が国の学力論の展開<br>15. 授業のまとめ－総括テスト－  |                         | <b>授業計画</b><br>【開講時期】2012年夏季。日程は、別途連絡する。<br>1. 情報を活用するための工夫と情報機器の取り扱い<br>2. 情報の収集・発信と情報機器の活用<br>3. Wordを利用した文書作成（1）<br>4. Wordを利用した文書作成（2）<br>5. Excelを利用した文書作成（1）<br>6. Excelを利用した文書作成（2）<br>7. Power Pointを利用した文書作成（1）<br>8. Power Pointを利用した文書作成（2）<br>9. 教材研究<br>10. 情報機器を利用した授業の指導案作成Ⅰ（取得免許の教科）<br>11. 情報機器を利用した授業の指導案作成Ⅱ（取得免許の教科）<br>12. 情報技術を使用した模擬授業の実施Ⅰ<br>13. 情報技術を使用した模擬授業の実施Ⅱ<br>14. 情報技術を使用した模擬授業の実施Ⅲ<br>15. 情報機器を活用した授業評価                                    |
|                       | <b>学期</b><br><b>前期</b>   |                         | <b>学期</b><br><b>集中</b>   |
|                       | <b>単位数</b><br>2  |                         | <b>単位数</b><br>2  |
|                       | <b>担当者</b><br>山本芳孝   |                         | <b>担当者</b><br>本多千明   |
|                       | <b>テキスト</b><br>特になし。   |                         | <b>テキスト</b>  |
|                       | <b>参考書・参考資料等</b><br>適宜紹介する。  |                         | <b>参考書・参考資料等</b><br>プリントを配布する。   |
|                       | <b>学生に対する評価</b><br>筆記試験、授業態度などにより総合評価する。受験資格は2/3以上出席とする。   |                         | <b>学生に対する評価</b><br>定期試験60%、小試験20%、授業参加20%  |
|                       | <b>その他</b><br>授業中にディスカッションやレポート作成を求めることがあるんで、積極的に応じること。  |                         | <b>その他</b>   |
|                       |  |                         |  |
|                       |  |                         |  |
| 科目名<br><b>道徳教育の研究</b> | <b>授業の到達目標及びテーマ</b><br>到達目標：・学習指導要領における道徳の目標、内容を学ぶ。<br>・道徳教育の理念や歴史を学ぶ。<br>・「道徳の時間」の実践的な指導力の修得をめざす。（学習指導案の作成と模擬授業）<br>テーマ：「道徳教育の理念と実践力の育成」  | 科目名<br><b>生徒指導・進路指導</b> | <b>授業の到達目標及びテーマ</b><br>到達目標：生徒指導と進路指導の基礎理論を理解した上で、生徒指導、進路指導の多くの事例をあげ、その課題にどれだけ接近できたかにより到達点を測る。<br>テーマ：キャリアガイダンス・カウンセリングを活かした生徒指導   |
|                       | <b>授業の概要</b><br>本講義では人間存在における道徳の重要性、そして教育の場において道徳はいかに教えられ得るかという問題を扱い、道徳教育の意義と方法の理解を目指す。講義は①西洋の道徳教育思想、②日本における道徳教育の歴史、③道徳教育の実践の3点を中心に行う。まず西洋の道徳教育思想では古代（ソクラテスからアリストテレス）、近代（カントからヘーゲル）を中心に、道徳性育成がいかに思惟されたかを見ゆく。次に日本における道徳教育史では、主に明治以降の道徳教育（修身）と戦後の「道徳の時間」がいかに設置されたかを見ゆく。最後には道徳教育の実践では、学習指導要領で道徳の時間の目標と内容項目がどのように位置づけられているのかを講義する。そして実際に中学校で使用されている副教材を使用して、学習指導案の作成と模擬授業を行い道徳の指導力向上を目指す。  |                         | <b>授業の概要</b><br>自分の将来をどう展望するか、進路指導の課題に真剣に取り組めば、それは生徒指導に活きてくる。本講義では、中・高等学校の生徒指導・進路指導を進める上での基礎的事項を解説した後、担当者の生徒指導主事、進路指導主事の現場経験を活用し、実践例を多く入れ課題解決型の講義にしたい。   |
|                       | <b>授業計画</b><br>第1回 人間存在と道徳（学習指導要領における道徳の目標と内容）<br>第2回 西洋における道徳教育の思想<br>①西洋古代の道徳教育の思想（ソクラテス、アリストテレス）<br>第3回 西洋における道徳教育の思想<br>②西洋近代の道徳教育の思想（カント・ヘーゲル）<br>第4回 日本における道徳教育の歴史 ①明治以前の道徳教育<br>第5回 日本における道徳教育の歴史 ②明治期における道徳教育<br>第6回 日本における道徳教育の歴史 ③大正期における道徳教育<br>第7回 日本における道徳教育の歴史 ④昭和期における道徳教育<br>第8回 道徳教育の実践 学習指導要領における道徳教育の位置づけ<br>第9回 学習指導案の作成の指導①（中学校1年の副教材・資料から）<br>第10回 学習指導案の作成の指導②（中学校2年の副教材・資料から）<br>第11回 学習指導案の作成の指導③（中学校3年の副教材・資料から）<br>第12回 学習指導案の作成と模擬授業①（中学校1年の副教材・資料を使用して）<br>第13回 学習指導案の作成と模擬授業②（中学校2年の副教材・資料を使用して）<br>第14回 学習指導案の作成と模擬授業③（中学校3年の副教材・資料を使用して） |                         | <b>授業計画</b><br>1. 教育指導と教員の役割を考察する。<br>2. 生徒の現状と生徒理解の方法を把握する。<br>3. 社会変化と子どもの生活の変化を解説する。<br>4. 社会変化と中・高校生の問題行動を知る。<br>5. 生徒の生育歴と問題行動の関係を把握する。小試験を実施する。<br>6. 生徒指導の実際（反社会的問題行動を中心に）を解説する。<br>7. 生徒指導の実際（非社会的問題行動を中心に）を解説する。<br>8. 進路指導の基礎（職業指導から進路指導）を解説する。<br>9. 進路指導の基礎（進路指導からキャリア教育）を解説する。<br>10. 進路選択の基礎理論を解説する。（特性・因子理論から職業的の発達理論までとその後）<br>11. 進路選択の実務を解説する。（1）<br>12. 進路選択の実務を解説する。（2）<br>13. キャリア教育とは、どのような教育指導なのか解説し実践例を学ぶ。<br>14. キャリア教育と生徒指導の関係を考察する。<br>15. 総括講義 |
|                       | <b>学期</b><br><b>集中</b>   |                         | <b>学期</b><br><b>前期</b>   |
|                       | <b>単位数</b><br>2  |                         | <b>単位数</b><br>2  |
|                       | <b>担当者</b><br>田中潤一   |                         | <b>担当者</b><br>伊藤一雄   |
|                       | <b>テキスト</b><br>『中学校学習指導要領解説 道徳編』文部科学省<br>田中潤一・田中達也「未来を拓く教育」ナカニシヤ出版   |                         | <b>テキスト</b><br>伊藤一雄著「新・教育指導の理論と実践」サンライズ出版 2007.4   |
|                       | <b>参考書・参考資料等</b><br>プリントを配布  |                         | <b>参考書・参考資料等</b><br>伊藤一雄著「キャリア開発と職業指導」法律文化社 2011.4   |
|                       | <b>学生に対する評価</b><br>学習指導案作成と模擬授業40%、学期末レポート60%  |                         | <b>学生に対する評価</b><br>定期試験60%、小試験20%、授業参加（単なる出席ではなく質疑、発表などどれだけ主体的に授業に取組んだか）20%  |
|                       | <b>その他</b><br>特になし   |                         | <b>その他</b><br>各自の中、高校時代の生徒指導上の課題を素材として指導方法を考察したい。  |
|                       |  |                         |  |
|                       |  |                         |  |

|       |  |  |
|-------|--|--|
| 科目名   | 授業の到達目標及びテーマ   |  |
| 教育相談  | <p><b>到達目標：</b>学校教育相談の実情を理解すると共に必要な基礎的知識を習得する。教育相談の基礎理論となる、教育や心理学の基礎理論を理解する。<br/>児童・生徒の抱える様々な問題や悩みに対応できる知識と解決方法を学ぶ。</p> <p><b>テーマ：</b>児童・生徒が学校や家庭の生活で抱える様々な問題とその対処方法を理解する。生徒の発達段階の理解や、自尊感情の育成についての理論を理解する。学習障害や、ADHDなどの広汎性発達障害について学習する。</p>  |  |
| 授業の概要 | <p>基本的には講義形式で進めるが、学生と双方の授業であるように、常に意見を求める。テーマを決めてディスカッションを行う。考へるヒントとなるビデオ教材も鑑賞する。</p>  |  |
| 授業計画  | <p>1. オリエンテーション。授業計画、授業の概要の説明。教育相談の定義。<br/>2. 教育相談の概念、枠組み、範疇。学校教育相談の具体例。<br/>3. 人間の発達段階と児童期や青年期の特性について。<br/>4. 自尊感情の育成方法。<br/>5. 児童期の子どもの様々な悩みについて。<br/>6. 学校内外でのいじめや不登校の問題について。<br/>7. 子どもを取りまく家庭の問題について。(DVや虐待の問題も含む)<br/>8. 様々な不適応問題の原因と解決策。<br/>9. 発達障害について。(学習障害、ADHD、アスペルガー症候群等)<br/>10. 発達障害を持つ子どもと家族への援助。(大人のADHDも含める。)<br/>11. カウンセリングの基本的なテクニックと理論の紹介<br/>12. 国際化に伴う教育相談。(外国人未就学児童の問題など)<br/>13. 社会問題化するドラッグや非行、引きこもり等の問題について。<br/>14. 教育者としての教師の自己管理について(教師の燃え尽き症候群、教師への援助)<br/>15. まとめ。<br/>授業を振り返って、児童・生徒にできる援助と、自分自身の人間的成长についての考察。</p>   |  |
| 学期    | 授業の到達目標及びテーマ   |  |
| 後期    | 到達目標：4年間の教職科の学習及び教育実習の経験などを通じて、教職に対する理解がどれだけ深まったか。教職に対する意欲がどれだけ高揚したかを確認し、具体的な指導方法の向上を図る。   |  |
| 単位数   | テーマ：教職に対する理解の深化と意欲の伸長  |  |
| 2     | 授業の概要  |  |
| 担当者   | 4年間の教職科の学習及び教育実習を通じて、教育指導の技術の一層の進化と定着を図ることを目標とする。  |  |
| 戸來知子  | 授業計画   |  |
|       | <p>1. 本演習の目標・内容について解説する。各自の教職実践演習カルテの記入を図る。<br/>2. 各自の教育実習の体験を発表し、今日の学校の抱える課題を共有する。I<br/>3. 各自の教育実習の体験を発表し、今日の学校の抱える課題を共有する。II。<br/>4. 生徒指導(反社会的行動の生徒)の指導方法について各自の体験とともに解決策を探る。<br/>5. 生徒指導(非社会的行動の生徒)の指導方法について各自の体験とともに解決策を探る。<br/>6. 生徒指導についてのロールプレイ I<br/>7. 生徒指導についてのロールプレイ II<br/>8. キャリアガイダンスとカウンセリングの実際 I<br/>-進学希望生徒の場合-<br/>9. キャリアガイダンスとカウンセリングの実際 II<br/>-就職希望生徒の場合-<br/>10. キャリアガイダンスとカウンセリングの実際 III<br/>-進路未決定生徒の場合-<br/>11. ミニ模擬授業 I -授業方法と技術-<br/>12. ミニ模擬授業 I -授業構成と評価-<br/>13. 授業方法、授業順序、内容構成、生徒指導のかかわりについて考察する。<br/>14. 教職実践演習カルテの記入事項の再点検と個人的課題の整理<br/>15. 教職実践演習カルテを記入した個々の学生に対してカウンセリングを行う。</p> |  |
|       | テキスト   |  |
|       | なし、必要に応じプリントを配布する  |  |
|       | 参考書・参考資料等  |  |
|       | 伊藤一雄 他著 「新・教育指導の理論と実践」サンライズ出版 2006.4   |  |
|       | 学生に対する評価   |  |
|       | 発表レジメの内容(20)、発表方法・技術(20)、ガイダンス・カウンセリングの技術(20)、ミニ模擬授業(20)、総括レポート(20)を総合する。  |  |
|       | その他の   |  |
|       | 演習に以下に意欲的に参加できたかが大切である。教育実習ノートを持参すること。   |  |

|         |   |  |
|---------|---|--|
| 科目名     | 授業の到達目標及びテーマ  |  |
| 教育実習の研究 | <p>教育実習の意義は、第一に、受講生による教師論・教育論を主体的に再構築することである。これまで大学で学んだ教養の教育、教科専門教育及び教職専門教育の知識を学校現場で実践・検証し、自らの教師論・教育論を再構築することを目標とする。第二に、教員になるための職能を獲得する機会を得ることである。現代の学校教育の状況、今日の教員や児童・生徒の考え方や実態を捉える中で、教員となるための職能を自ら高めていくことを目標とする。</p>   |  |
| 授業の概要   | <p>教育実習の事前・事後指導を通して、教員になるための動機づけ・意義づけを強め、教育実習に必要な基礎知識・技能を習得させる。</p>   |  |
| 授業計画    | <p>1. 事前指導(5回)<br/>第1回：教育実習の意義と目標<br/>第2回：教育実習の基礎知識<br/>第3回：学校現場の1日と実習日誌の書き方<br/>第4回：授業の進め方、指導案の書き方<br/>第5回：教育実習の心得の確認と教育実習レポートの書き方</p> <p>2. 教育実習(中学校または高等学校において90時間の委託実習を行う)</p> <p>3. 事後指導(2回)<br/>第6回：教育実習の報告<br/>教職の意義の相互確認<br/>第7回：教育実習の総括<br/>教員採用試験について</p> |  |
| 学期      | 授業の到達目標及びテーマ  |  |
| 前期      | 到達目標：<br>テーマ：   |  |
| 単位数     | 授業の概要   |  |
| 1       | 授業計画  |  |
| 担当者     | <p>参考書・参考資料等</p> <p>教育実習を考える会編『教育実習の常識』蒼丘書林<br/>教育実習日誌・教科指導案</p>  |  |
| 山脇雅夫    | 学生に対する評価  |  |
|         | 実習校からの教育実習評価表、教育実習レポート・教育実習日誌・指導案、授業態度・授業参加を加味する  |  |
|         | その他の  |  |
|         | 今年度の教育実習Iに行く学生は、必ず木曜日1講時(前期)の「教育実習の研究」を受講すること。  |  |

|                                 |  |  |
|---------------------------------|--|--|
| 科目名<br><b>就職入<br/>キル講<br/>座</b> | <b>授業の到達目標及びテーマ</b><br>到達目標：自己の能力を発見し主体的に行動することを学ぶ。<br>就職活動に必要なスキルを学ぶ。<br>テーマ：社会人として働くことの意義を考える。   | <b>授業の到達目標及びテーマ</b><br>到達目標：大学教育と社会とのシームレスな接合を図る<br>テーマ：労働と社会<br>※この講座は、(株)新日本科学 代表取締役社長 永田良一氏の寄附に基づき、密教・仏教の精神を持った現場人教育の一環として開講されます。 |
|                                 | <b>授業の概要</b><br>社会人として必要なマナーや良好なコミュニケーションの表現をグループワークや演習をとおして学んでいきます。<br>自分は社会に対してどのように貢献していきたいのかを考え、就職活動の進め方を学んでいきます。  |  |
|                                 | <b>授業計画</b><br>1. オリエンテーション<br>2. 社会人として求められる能力（社会人基礎能力）<br>3. 自己分析①（わたしのライフライン）<br>4. 自己分析②（交流分析ヒストローグ）<br>5. コミュニケーションスキル①<br>(コミュニケーションの5原則、マナーの必要性)<br>6. コミュニケーションスキル②（立居振舞、表情、視線、身だしなみ）<br>7. コミュニケーションスキル③（話し方、聴き方）<br>8. コミュニケーションスキル④（言葉遣い、敬語）<br>9. 就職活動①<br>(就職活動の流れと構造、自己の能力と業種の特性の合致)<br>10. 就職活動②（履歴書、エントリーシートの作成）<br>11. 就職活動③（自己PR、志望動機の作成）<br>12. 就職活動④（面接の流れと方法）<br>13. 就職活動⑤（模擬面接、グループディスカッション）<br>14. 就職活動⑥（模擬面接、グループディスカッション）<br>15. 就職活動⑦（総括と自己点検） |  |
|                                 | <b>テキスト</b><br>教員作成の資料を配布する。   |  |
|                                 | <b>参考書・参考資料等</b><br>適宜授業内で紹介する。  |  |
|                                 | <b>学生に対する評価</b><br>平常点20%、授業内課題40%、授業内演習40%で評価する。  |  |
|                                 | <b>その他</b><br>実践中心の授業ですので、課題、演習には積極的に取り組んでください。<br>受ける授業でなく、自らが作る授業にしていきましょう。<br>各授業は連続性があるので欠席しないようにしてください。   |  |
|                                 | <b>授業の到達目標及びテーマ</b><br>到達目標：言語としての日本語について基本的な理解を深める。<br>テーマ：言語としての日本語  |  |
|                                 | <b>授業の概要</b><br>テキストに使う、藤田（2010）に沿って、日本語についての基礎的な内容を講義する。授業は、原則的に講義形式とするが、できる限り、都度の小レポート等、受講者に積極的に参加してもらうようとする。  |  |
|                                 | <b>授業計画</b><br>1. 言語と人間 二重分節性、言語の機能（1）<br>2. 同（2）<br>3. 日本語の音声・音韻 音声と音韻、単音の分類、母音（1）<br>4. 同（2）<br>5. 日本語の音声・音韻 音声器官、子音の基本事項（1）<br>6. 同（2）<br>7. 日本語の音声・音韻 清濁、拗音（1）<br>8. 同（2）<br>9. 日本語の音声・音韻 拍と音節、特殊拍、アクセントとその役割（1）<br>10. 同（2）<br>11. 日本語の文字表記 日本語の表記の特色、漢字の将来（1）<br>12. 同（2）<br>13. 日本語の文字表記 漢字の構造と用法（六書）、音と訓、国字・国訓（1）<br>14. 同（2）<br>15. 日本語の文字表記 平仮名・片仮名、ローマ字   |  |
|                                 | <b>テキスト</b><br>藤田保幸、『緑の日本語』、和泉書店、2010年   |  |
|                                 | <b>参考書・参考資料等</b><br>適宜、指示、または、配布する。  |  |
|                                 | <b>学生に対する評価</b><br>平常点（30%）、授業への参加態度（10%）、および、期末のレポート（60%）による。   |  |
|                                 | <b>その他</b><br>授業の都合により、一部の変更があり得る。   |  |
|                                 | <b>授業の概要</b><br>労働の意味を見直し、職業社会を生きるために基本的「文法」の習得を目指します。社会人としての基礎的知識を習得するとともに、機能なコミュニケーションができるよう、参加者によるレポート発表を中心テキストを徹底的に理解します。  |  |
|                                 | <b>授業計画</b><br>1. オリエンテーション<br>2. 働くことの意味1-べての家から<br>3. 働くことの意味2-利他主義と自己実現<br>4. 会社とはなにか<br>5. 会社の組織<br>6. あたらしい会社法<br>7. 日本的経営<br>8. 就職とはどういうことか<br>9. さまざまな給与のかたち<br>10. 会社で働くとは<br>11. 学校と職場の違い<br>12. 日本的雇用の崩壊<br>13. いろいろな働き方<br>14. 企業経営の現場から（永田良一客員教授）<br>15. まとめ<br>*講義の日程は、あらためて掲示します。  |  |
|                                 | <b>テキスト</b><br>池上彰『会社のことをよくわからないまま社会人になった人へ』<br>(海竜社)  |  |
|                                 | <b>参考書・参考資料等</b>   |  |
|                                 | <b>学生に対する評価</b><br>平常点50点（レポート発表）、学期末レポート50点   |  |
|                                 | <b>その他</b><br>この授業は、社会人としての基礎知識の学習を通して、自立していくために必要な自己学習力の習得を目指します。積極的な参加を期待します。  |  |

|                         |  |   |
|-------------------------|--|---|
| 科目名<br><b>国語学<br/>I</b> | <b>授業の到達目標及びテーマ</b><br>到達目標：言語としての日本語について基本的な理解を深める。<br>テーマ：言語としての日本語  | <b>授業の到達目標及びテーマ</b><br>到達目標：言語としての日本語について基本的な理解を深める。<br>テーマ：言語としての日本語 |
|                         | <b>授業の概要</b><br>テキストに使う、藤田（2010）に沿って、日本語についての基礎的な内容を講義する。授業は、原則的に講義形式とするが、できる限り、都度の小レポート等、受講者に積極的に参加してもらうようとする。  |   |
|                         | <b>授業計画</b><br>1. 言語と人間 二重分節性、言語の機能（1）<br>2. 同（2）<br>3. 日本語の音声・音韻 音声と音韻、単音の分類、母音（1）<br>4. 同（2）<br>5. 日本語の音声・音韻 音声器官、子音の基本事項（1）<br>6. 同（2）<br>7. 日本語の音声・音韻 清濁、拗音（1）<br>8. 同（2）<br>9. 日本語の音声・音韻 拍と音節、特殊拍、アクセントとその役割（1）<br>10. 同（2）<br>11. 日本語の文字表記 日本語の表記の特色、漢字の将来（1）<br>12. 同（2）<br>13. 日本語の文字表記 漢字の構造と用法（六書）、音と訓、国字・国訓（1）<br>14. 同（2）<br>15. 日本語の文字表記 平仮名・片仮名、ローマ字 |   |
|                         | <b>テキスト</b><br>藤田保幸、『緑の日本語』、和泉書店、2010年   |   |
|                         | <b>参考書・参考資料等</b><br>適宜、指示、または、配布する。  |   |
|                         | <b>学生に対する評価</b><br>平常点（30%）、授業への参加態度（10%）、および、期末のレポート（60%）による。   |   |
|                         | <b>その他</b><br>授業の都合により、一部の変更があり得る。   |   |
|                         | <b>授業の概要</b><br>テキストに使う、藤田（2010）に沿って、日本語についての基礎的な内容を講義する。授業は、原則的に講義形式とするが、できる限り、都度の小レポート等、受講者に積極的に参加してもらうようとする。  |   |
|                         | <b>授業計画</b><br>1. 日本語の語彙 語彙の概念、語彙量、理解語彙等、語彙調査（1）<br>2. 同（2）<br>3. 日本語の語彙 語種（和語・漢語・外来語）（1）<br>4. 同（2）<br>5. 日本語の語彙 語彙と位相（位相とは、女性語・隠語）（1）<br>6. 同（2）<br>7. 本語の文法 学校文法とその限界、文法と言語生活（1）<br>8. 同（2）<br>9. 日本語の文法 現代の文法の考え方、隣接分野としての語用論（1）<br>10. 同（2）<br>11. 日本語の方言 方言とは、東西差、方言区画、方言周辯論（1）<br>12. 同（2）<br>13. 日本語の位置 世界の中の日本語の位置、日本語の特質（1）<br>14. 同（2）<br>15. まとめ       |   |
|                         | <b>テキスト</b><br>藤田保幸、『緑の日本語教本』、和泉書店、2010年   |   |
|                         | <b>参考書・参考資料等</b><br>適宜、指示、または、配布。  |   |
|                         | <b>学生に対する評価</b><br>平常点（30%）、授業への参加態度（10%）、および、期末のレポート（60%）による。   |   |
|                         | <b>その他</b><br>授業の進行の都合により、一部の変更があり得る。  |   |

|          |   |  |  |
|----------|---|--|--|
| 科目名      | 授業の到達目標及びテーマ<br>到達目標：特別活動の必要性や内容、方法、歴史などに関して理解を深め、教員になる上での資質や実践力を培う。<br>テーマ：特別活動の本質と実践の探究   | 科目名                                      | 授業の到達目標及びテーマ<br>到達目標：阿息観の修得<br>テーマ：阿息観の理論と実習   |
| 特別教育活動   | 授業の概要<br>特別活動の変遷、特別活動の特質、特別活動の内容及び方法等に関して考察する。  | 事相研究〔聖教の伝授と実習〕(別)                        | 授業の概要<br>阿字観の前行と位置づけられている阿息観について、その理論を解説するとともに実習をおこなう。<br>テキストにしたがって講義を進める。  |
| 授業計画     | 1. 特別活動とは（授業のガイダンス）<br>2. 学習指導要領における特別活動の変遷（1）<br>（昭和 22 年版から昭和 44 年版）<br>3. 学習指導要領における特別活動の変遷（2）<br>（昭和 52 年版から平成 20 年版）<br>4. 特別活動の今日的意義と必要性<br>5. 特別活動の改善の特徴<br>6. 特別活動と他領域との関係及び取扱い<br>7. 特別活動の年間計画の作成（資料収集とグループ協議）<br>8. 特別活動の年間計画の作成（年間計画の作業と完成）<br>9. 学級活動の特質と内容<br>10. 学級活動の指導案作成<br>11. 生徒会活動及び学校行事の特質と内容<br>12. 個と集団に関わる一般原理<br>13. 学級集団作りの過程と構造<br>14. リーダーシップと集団形成<br>15. 授業のまとめ－総括テスト－ | 授業計画                                     | 1. オリエンテーション<br>2. 阿息観と悟り<br>3. 真言密教と釈迦<br>4. 瞑想の目的と種類<br>5. 修行の基本<br>6. 弘法大師空海の宗教体験<br>7. 阿息観について<br>8. 阿息観について<br>9. 阿息観の実習<br>10. 阿息観の実習<br>11. 討論<br>12. 阿息観の実習<br>13. 阿息観の現代的意義<br>14. 阿息観の現代的意義<br>15. まとめ |
| 学期       | 通年  | 学期                                       | 通年   |
| 前期       |   | 前期                                       |  |
| 単位数      | 2   | 単位数                                      | 2  |
| 担当者      | テキスト<br>特になし。   | 担当者                                      | テキスト<br>山崎泰廣『阿字観瞑想入門』（春秋社）※生協取り扱い  |
| 山本芳孝     | 参考書・参考資料等<br>適宜紹介する。  | 参考書・参考資料等<br>『密教福祉 I』『密教福祉 II』（密教福祉研究会編） | 参考書・参考資料等<br>『密教福祉 I』『密教福祉 II』（密教福祉研究会編）   |
| 学生に対する評価 | 筆記試験、授業態度などにより総合評価する。受験資格は 2/3 以上出席とする。   | 学生に対する評価                                 | 期末レポート 60%、授業 20%、討論小テスト 20%   |
| その他      | 授業の進め方としては、発表やディスカッションなど学生による活動の場を多く取り入れたいと考えているので、積極的に参加してほしい。   | その他                                      | その他  |

|                   |   |  |  |
|-------------------|---|--|--|
| 科目名               | 授業の到達目標及びテーマ<br>到達目標：阿息観の修得<br>テーマ：阿息観の理論と実習                                | 科目名                                      | 授業の到達目標及びテーマ<br>到達目標：<br>テーマ：            |
| 事相研究〔聖教の伝授と実習〕(別) | 授業の概要<br>阿字観の前行と位置づけられている阿息観について、その理論を解説するとともに実習をおこなう。<br>テキストにしたがって講義を進める。 | 授業の概要                                    |  |
| 学期                | 授業計画  | 学期                                       | 授業計画                                     |
| 通年                |   | 通年                                       |  |
| 単位数               | 2   | 単位数                                      | 2  |
| 担当者               | テキスト<br>山崎泰廣『阿字観瞑想入門』（春秋社）※生協取り扱い   | 担当者                                      | テキスト                                     |
| 佐藤隆彦              | 参考書・参考資料等<br>『密教福祉 I』『密教福祉 II』（密教福祉研究会編）                                    | 参考書・参考資料等<br>『密教福祉 I』『密教福祉 II』（密教福祉研究会編） | 参考書・参考資料等<br>『密教福祉 I』『密教福祉 II』（密教福祉研究会編） |
| 学生に対する評価          | 期末レポート 60%、授業 20%、討論小テスト 20%  | 学生に対する評価                                 | 学生に対する評価                                 |
| その他               | その他   | その他                                      | その他                                      |